

第3回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 作品集



若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

第三回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

一般の部 入賞・入選

【最優秀賞】 一首

君の背に「好き」
って書いたあの夏の貝殻ひとつさよなら
ごめん

北海道

後藤

明美

【優秀賞】 二首

割らるるを待つ卵殻に包まれて夜の静寂しじまに眠るこの町

山口県 瀬戸内 光

上陸を果たしたばかりの幼蛙畦草刈れば一斉に跳ぶ

群馬県 桑原 謙一

【特別賞】 二首

《伊藤一彦 選》

わが慕ふキーン氏に続き夫逝きぬ願はくば連れ立ちて黄泉路を

神奈川県

蓮見

孝子

《小島なお 選》

鋸を挽く巣箱の屋根の勾配の鉛筆の線冬の日の差す

愛知県

清水

良郎

【入選】二〇首

それぞれにそれぞれの富士なつかしき津軽に若狭に讃岐に薩摩

愛媛県

宇和上

正

風向きを確かめながらヤマボウシの花散る下に来る人を待つ

青森県

木立

徹

雪形の崩れ歯ブラシで指し示し祖父は峡田かいだの田植日を計る

群馬県

細矢

九谷

「これ僕の哲学ですよ」と友のいふ「こたはりでせう」と云はずにおこらう

群馬県

熊澤

峻

郭公かつこうの鳴声きこゆ法師の湯昔も今も宿は一軒

群馬県

林

いくじ

芳香のそこはかと無く漂いぬ競りを終えても花卉市場には

埼玉県 若山 巖

濃く淡くみどりに萌ゆる奥吉野陀羅尼助有貼り主は留守

大阪府 赤澤 皆春

粛々と群れ行く影を横に見て駅を出る吾は元の牛飼

茨城県 風森 漣翠

親指と人差し指の長方形のぞいて見れば蕎麦の花だけ

群馬県 本多 義二

恋焦がれ利根の河原を涉りたる歌碑に残りし万葉の女

群馬県 番場 正夫

一年生を子亀のやうに背に乗せて泳いだ泳いだプールができて

群馬県 細川 のぶ子

草をひく^{おみな}姫に声かけ目を凝らす後の七人全員かかし

群馬県 田村 鶴江

赤啄木鳥か小啄木鳥だらうかドラミング出勤前を耳澄ましゐる

群馬県 眞庭 ヨシ子

吃音を隠し下向く高校の庭にはたしか白詰草が

山口県 松本 進

雨降ってふて寝する猫横に見て同じ格好でとがってる嫁

群馬県 篠原 悦二

母の背の小さかりけり雨の日を田草取らむと蓑をまとへど

群馬県 眞庭 義夫

行き付けのうどん屋に立つ煙突は煙をあげて営業知らず

群馬県 林 郁男

娘^こも孫もわが梅干を欲^ほりたれば八十路^{やそち}すぎし身木^{みき}のぼりもせり

群馬県

板橋
きみ江

聞こえぬにひたすら待ちし時鳥きこえぬ耳を疑はずして

東京都

荒井
千枝

見飽きたる顔よとおもふ用ありてひげを剃る顔取り替へ効かず

福岡県

西山
博幸

第三回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

中学生・高校生の部

入賞・入選

【最優秀賞】 一首

日本一我が県貫く水色の服は大きく袖は多く

群馬県 利根商業高等学校2年 高橋 陸仁

【優秀賞】 二首

夏の日
は魚を
思いい
ざ行く
よ魚と
言う名
の恋人
に

群馬県 利根実業高等学校3年 飯村 剛士

昔のね
あなたは
はずつ
とこう
だった
今言わ
れても
知らね
えんだ
わ

群馬県 利根実業高等学校3年 宮城 亜美

【特別賞】 二首

《伊藤一彦 選》

みなかみのバンジージャンプ飛ぶ時に見える景色が大自然

群馬県 新治中学校3年 井浦 信

《小島なお 選》

青空に一人で歩く太陽ののろまな帰り僕の休日

群馬県 水上中学校3年 田村 鴻之介

【入選】 二〇首

この春で新しくなる友の声夏もこの声
樂しめそうだ

群馬県 利根実業高等学校1年 石田 侑亜

えんがわにすわれれば来たよ動くかげ
おいでと呼べばワンとほえられ

群馬県 利根実業高等学校1年 立木 愛梨

水芭蕉風に吹かれるその姿さながら
眠るゆりかこの赤子

群馬県 利根実業高等学校2年 高橋 龍之介

縄文の息を感じる土の色心を宿すその
眼の奥に

群馬県 沼田高等学校1年 平井 謙伸

赤谷川の川原の石を持ち上げてカニが
おどろく我が夏の日を

群馬県 月夜野中学校2年 千明 俊生

夏祭り友達つれて出店行き全然当たる気がしないくじ

群馬県 利根実業高等学校2年 郷原 伯

寝ていたら寝ているようで起きてたら寝ているようですぐ怒られます

群馬県 沼田高等学校2年 高橋 寿成

ある夏のもっとも熱い夢の国ねずみの中身とてもきつい

群馬県 沼田高等学校2年 古俣 成聖

音楽を聴きながら待つバス停で見える紫陽花イヤホン外す

群馬県 利根実業高等学校1年 石田 桜雪

垢ぬける言葉の意味を知らぬまま僕らはきつと垢ぬける

群馬県 利根実業高等学校1年 後藤 美咲

帰り道隣にならぶ君の目に映る空に嫉妬する我

群馬県 利根実業高等学校1年 星野 愛真

怖いもの見たくないねと言いつつもなぜか見ている君も怖い

群馬県 利根実業高等学校1年 山田 将人

中三が今年最後の大会で三敗一勝先生が泣く

群馬県 利根実業高等学校2年 新妻 飛鶴

満開の四葩よひらの下に雨蛙真つ赤に染まる雲を感じて

群馬県 利根実業高等学校3年 吉澤 梨緒

さびしいな利根実の門くぐることだって近づく卒業式

群馬県 利根実業高等学校3年 本多 里美

フワフワでシロップたっぷりカキ氷頭キーンが夏の友達

群馬県 利根実業高等学校3年 近野 美咲

話し声君かと思つてふりむいた分かつていても二度見してしまう

群馬県 利根実業高等学校3年 生方 啓太

夕焼けの道を歩いて僕たちは互いの気持ちに嘘をつけない

群馬県 利根実業高等学校3年 桑原 凛音

海泳ぎきれいな魚が空翔ける鳥のようなきれいな魚

群馬県 月夜野中学校2年 菅沼 祥汰

みなかみのきれいな水で生まれたよいちごにりんごにさくらんぼ

群馬県 新治中学校3年 岡田 天平

◆ 選者紹介



伊藤 一彦（いとう かずひこ）

昭和十八年（1943）宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、迢空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。



小島 なお（こじま なお）

昭和六十一年（1986）東京生まれ。コスモス短歌会所属。同人誌「cocoon」編集委員。歌人である母小島ゆかりの手伝いをして短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学中の2004年に角川短歌賞受賞。その他、現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。歌集に『乱反射』、『サリンジャーは死んでしまった』などがある。現在、日本女子大学講師。

第三回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

入賞作品講評

一般の部、中学生・高校生の部

《一般の部》

【最優秀賞】

君の背に「好き」って書いたあの夏の貝殻ひとつさよなら ごめん

北海道 後藤 明美

「あの夏」の場面がよく見える。その時に拾った貝殻を大事にしてきた。しかし、思
い出を捨てるように貝殻とお別れしようと。「さよなら ごめん」が秀逸の表現だ。

【優秀賞】

割らるるを待つ卵殻に包まれて夜の静寂に眠るこの町

山口県 瀬戸内 光

「この町」という言い方をしているが、作者の住んでいる町だろう。わが町の静けさ
を愛しつつ、作者は町も自分も飛躍と発展を願っている。上の句の喩えが見事である。

上陸を果たしたばかりの幼蛙畦草刈れば一斉に跳ぶ

群馬県 桑原 謙一

「上陸」と大きく出た表現がいい。田の手入れをする作者とあたらしい世界を生きはじめた蛙。「一斉に跳ぶ」は両者のダイナミックで鮮やかな出会いの瞬間です。

【特別賞】

◇伊藤一彦 選

わが慕ふキーン氏に続き夫逝きぬ願はくば連れ立ちて黄泉路を

神奈川県 蓮見 孝子

ドナルド・キーン氏は優れた文学研究者だったが、今年二月に亡くなった。作者の夫はキーン氏の人と文学を深く愛していたのだ。下の句の祈りと願いが感動的である。

◇小島なお 選

鋸を挽く巣箱の屋根の勾配の鉛筆の線冬の日の差す

愛知県 清水 良郎

鳥の巣箱を作る途中の場面。木の板にまず鉛筆で下書きをしますのでね。「勾配」の柔らかな曲線に照る冬陽の光には春のいのちの予感が静かに内包されています。

《中学生・高校生の部》

【最優秀賞】

日本一我が県貫く水色の服は大きく袖は多く

群馬県 利根商業高校2年 高橋 陸仁

河川の規模が最大級の利根川を歌った作で、「水色の服」に見立てたのが若々しく素晴らしい。支流を「袖」にたとえたのも巧み。迷わず最優秀賞に推した。

【優秀賞】

夏の日魚を思いいざ行くよ魚と言う名の恋人に

群馬県 利根実業高等学校3年 飯村 剛士

釣りをするのか、泳ぎにいくのか。いずれにしても魚を恋人とする作者の夏はどんなときめきに満ちているのでしょうか。牧水の短歌を思わせる力溢れるリズム。

昔のねあなたはずっとこうだった今言われても知らねえんだわ

群馬県 利根実業高等学校3年 宮城 亜美

作者にむかって「昔のねあなたは」と言ったのは親だろうか、友人だろうか。どちらでも面白いが、作者の返答の言葉が面白い。とぼけた言い方にユーモアが出ている。

【特別賞】

◇伊藤一彦 選

みなかみのバンジージャンプ飛ぶ時に見える景色が大自然

群馬県 新治中学校3年 井浦 信

さすが若い人の歌で、感心した。高い橋の上から命綱一本で飛び降りるとき、身も心も自然に包まれ、抱かれている感じを味わうのだ。リズムも力強く爽やか。

◇小島なお 選

青空に一人で歩く太陽ののろまな帰り僕の休日

群馬県 水上中学校3年 田村 鴻之介

太陽はいつも一人きりでゆっくりと青空を歩いている。そののろまな速度に合わせるように僕の休日の時間も流れてゆくのです。豊かで自在な空の詩。

第三回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

作品集（一般の部）

○一般の部

240人

388首

○中学生・高校生の部

912人

1284首

※中学生・高校生の作品集は別冊

ひとりゆくこころの旅のはたてこそ誰ぞ知らざる山河にてあれ	群馬県	眞庭	義夫
早春に幟はためく農機展武尊おろしに粉雪が舞ふ	群馬県	今井	栄一
孫からの漢字少い励ましの絵手紙壁に透析の朝	北海道	鎌田	誠
「お早う」と「いただきます」と「只今」を聞けなくなりて一人「オヤスミ」	北海道	鎌田	誠
末広に波立て代を搔く農夫散兵率ある騎馬の象す	山口県	藤井	重行
脇に佇つ御地藏様に櫂の木太陽のかけらの木洩れ日を降らす	大分県	佐藤	政俊
ここにいて欲しいと君がせがむ日の散りゆく桜涙のようだ	千葉県	竹谷	華林
絶望が向かいのホーム立っている神様なんてどこにも居ない	千葉県	竹谷	華林
新緑が桜並木となり雪のなお降る北の村へ旅ゆく	秋田県	鈴木	仁
身に染みる酒の味とはこの事か定年退職雪の旅宿	長野県	市川	光男
みちのくのかな訛り漂わせウエイトレスは笑みを絶やさず	東京都	野上	卓
西空を茜に染めて夕暮るる悠久に生く八十五年を	岐阜県	古井	富貴子
ただいまと無人の家に声かけて晩飯つくる今日はオムレツ	静岡県	大庭	拓郎
無い無いと騒いで亡母探し物食べた後でしょ茄子の朝漬け	大阪府	後藤	憲之
物忘れ多くなりたる日々なれど季節を追いて育つ野菜よ	岐阜県	野村	訓啓
孫からの漢字少ない励ましのハガキ壁刺し透析の旅	北海道	鎌田	誠
丸時計風車花無し血が踊る透析室へようこそ旅す	北海道	鎌田	誠
旅慣れて荷物が軽くなっていく人生の旅重い荷のまま	青森県	高橋	圭子

三名湯ひとつも連れて行けぬまま旅の土産を亡父母に買う	青森県	高橋	圭子
望めるは窓よりの空のみにして手術後の日日旅を夢見ぬ	愛知県	星原	風堂
齢かさね旅ゆくことの叶わずにテレビの旅を一人楽しむ	千葉県	高屋	敏子
呑むまではあれこれ躍る胸のうち無味無臭なり胃カメラの味	群馬県	野口	弘
いにしえの自然の姿そのままに不動黒岩凜として立つ	群馬県	大淵	照雄
妹の子犬預かり子育てのやりなおして楽しむ家族	千葉県	うめさわかよこ	
汗かいて歩いて知るや草や木の生きる力と心あるのを	群馬県	大淵	照雄
名胡桃の村主八幡大榎旅の安全祈りいっぷく	群馬県	大淵	照雄
墓守りて五年の月日巡り来る孫子連れ立ち田植終たり	群馬県	松井田	久子
秋の野にわたし見詰める独り旅家族のあれど友のあれども	兵庫県	大村	博子
今は無き駅弁売りの声がして中央線の無人駅過ぐ	三重県	岩谷	隆司
産土は赤城南麓あかあかと日の照る丘ぞ日の入る丘ぞ	宮城県	角田	正雄
三芳野の神に祈りし秘むるこひ桜散れども思ひは散らず	群馬県	一色	伯恭
滔滔とダム放流の水嵩が白波たてて兩岸洗ふ	群馬県	深津	一次
朝な朝な谷川岳を仰ぎつつ九十四年奥利根に生く	群馬県	深津	一次
母と僕車椅子積みみなかみへ母の想いはあふれあふれて	群馬県	齋藤	宏子
還暦を迎えこれから旅と酒呪縛よ解けて人生謳歌	群馬県	齋藤	宏子
山法師夕光にふわり浮きたちて夫と眺めた思い出乗せて	群馬県	柴山	利枝

初夏 <small>はつなつ</small> のひかりがまつすぐ届く朝ご飯を風にくるみて食みぬ	静岡県	大庭	拓郎
あの啄木のふるさとの山あの山は何と問われて自慢げに	岩手県	森	義真
「また明日」そろりと部屋に引き込もる見つけて猫は後追ひて鳴く	群馬県	奥村	清美
子雀よ何処まで餌をねだつてるひとりで食べねば生きては行けぬ	群馬県	奥村	清美
君はいまいづこの空をいきゆくやひとり異郷に風聴くらむか	群馬県	眞庭	義夫
脳味噌 <small>から</small> の空の部分に防災の知識満たしていざに備ふる	岐阜県	吉田	順代
一年の世界の旅終え空港にそばを啜りて和らぐ甥の目	千葉県	上田	康彦
柿熟るる大和路を老いの一団寄り道しつつ賑やかに行く	奈良県	堀ノ内	和夫
旅すがら出会いし女 <small>ひと</small> と親しむも話は足りず憂して別れぬ	東京都	華	春
オリーブの花は十字の形して五月の風にゆられていたり	大阪府	名川	由江
藁 <small>わら</small> いずみ泣く子をあやす囲炉裏端 <small>いつきがしうた</small> 五木節詩祖母白を挽く	福井県	高島	栄策
雨を吸う紫陽花のあお かなしみはきつと誰かが掬つてくれる	群馬県	木下	美樹枝
うすれゆく君の心の履歴書に私のページは残っているか	愛媛県	宇和上	正
亡 <small>あに</small> き義兄の旅の宿にて唄いたり「兄弟仁義」夫と肩組み	茨城県	太田	きみ子
汽水湖の水辺に添へる養殖の棚に注げる光遍し	静岡県	杉本	弘子
姑逝きて三十年経つカーネーション <small>くうげ</small> 供花す令和の母の日今日は	島根県	金山	黎子
雨上がりさくさく音立て草刈りし惚 <small>ほお</small> けし父の研ぎたる鎌に	青森県	野崎	和子
わが卒 <small>は</small> 寿祝 <small>ほ</small> ぎくるる席にうたはむと湯船にさらふ「白銀の糸」	大分県	羽田野	とみ

改元で令和となりて新しき事始めにと着付けを習ふ	群馬県	奥村	清美
亡き父の「歯医者に歯など治せぬ」と言ひし日思ふ一周忌の法事	群馬県	奥村	清美
湖の青き面に水動き紙面のごとく我をとらへる	群馬県	持谷	靖子
三国山峠に訪る暮らしあり我の幸せ友に語るや	群馬県	持谷	靖子
わが町を選び訪る旅人をもてなす心秘めし迎えむ	群馬県	阿部	良洋
時折は都会のほひ触れたくて夫婦連れ立ちビルの街行く	群馬県	阿部	良洋
芽吹きたる露の臺摘む妻の笑み今宵は酌まむ春の香で	埼玉県	金澤	隆男
雪消えて日がな一日畑を打つ馬鈴薯植ゑむと黙黙と打つ	埼玉県	金澤	隆男
「二合の二合の酒」とうたいたる牧水ばりに梅雨晴れの宵	群馬県	角田	勝子
病める友安んじ逝きぬ長年の願ひかなひし夫の受洗に	群馬県	白勢	庸夫
平穩に過ぎし昭和と平成と令和己の終末期なり	群馬県	杉木	輝夫
いただきし丹波黒豆とろとろと煮られておりぬ今日は日本酒	兵庫県	野添	一男
縫ひぐるみのアンパンマン・パンダ・ソファーに夜ひる目を開け曾孫来るを待つ	富山県	古澤	澄子
連日の梅もぎ終えてS席のタンゴ楽団疲れをいやす	和歌山県	谷中	明子
ひと昔と言つには早い3・11から想定外は今も新し	東京都	佐藤	春夫
三名城沼田名胡桃小川城址田植の人等眺めつ完歩す	群馬県	堀越	京子
棚田より仰ぐ谷川残雪は代掻馬を今年も描く	群馬県	割田	一
明日からは来た道ならず新たなる残照映へる峠路を行く	群馬県	割田	一

光跡 <small>こうせき</small> を追いつつ習う師の手話を言葉に起こして会話と成す	群馬県	秋山	充利
田植 <small>みなも</small> え唄水面を走る母の唄植えゆくほどに弾む声聞きにき	群馬県	秋山	充利
花吹雪フロントガラスに舞ひて来る免許返上決めし日の道	群馬県	金井	晶子
まだありき夫の手にせる万年筆残るぬくもり握りしむ夜	群馬県	金井	晶子
なまよみの甲斐に蛇笏を訪ひしとき牧水はたして酒を飲みしや	東京都	庭野	治男
万葉の利根を詠みたるただ一首みなかみに建 <small>た</small> つ徒 <small>た</small> 渉 <small>た</small> の歌碑	群馬県	番場	正夫
のんびりと気が向くまゝに幾山河旅してみたき牧水のごと	群馬県	長浜	利子
猛毒の代名詞のごと鳥兜 <small>きよ</small> 清らに咲ける秋の高原	群馬県	長浜	利子
無いことは有るよりむしろ自由だと気づきて我はまた一歩進む	大阪府	高橋	好恵
黙々と畑の草ひく己がそば寄りつ離れつ飛ぶジョウビタキ	大阪府	高橋	好恵
たとふれば書は目で聴きて音楽は耳で読みたる言の葉なりけり	大阪府	高橋	好恵
紀行文100年経ちて現実へみなかみの地はエコパークとなる	群馬県	番場	正夫
赤谷湖の湖上に並ぶ鯉のぼり緑の風にゆうゆうと尾をふる	群馬県	本多	義二
食事後の入歯をぬいて洗いおえ元にもどせばきびしき父に	群馬県	本多	義二
夕暮れの水張田に凜と立つ絵画のやうな青鷺を見ゆ	群馬県	吉田	まゆみ
虎の尾の白き花房雨に濡れ首を垂れし姿励ます	群馬県	吉田	まゆみ
雪融けの水は滾ちて瀬を早み尾羽根濡らして鳥啼き渡る	埼玉県	前田	明利
やまひ癒え甘露の酒の臍の腑をそろりそろり滲みわたりゆく	埼玉県	前田	明利

海は青燈台白く日は高し乙女椿のうす紅の唇 <small>くち</small>	埼玉県	前田	明利
違和感を少し抱きて座りおり女性の多き敬老席に	群馬県	桑原	謙一
久しぶり従兄弟に会へば「あるある」と介護の話題で話しはつきぬ	群馬県	奥村	清美
タタタタと急ぎ窓辺に走り寄る闇を見つめて動かぬ愛猫	群馬県	奥村	清美
山路へと鶯の声集む風疎き耳にもさやに聞こえむ	群馬県	清水	静子
みなかみの自然を残すエコパーク紀行の中で語られし夢	群馬県	番場	正夫
桑の実の白・赤・黒と輪をつなぎオリンピックの補助食に	群馬県	深代	里子
小雨降る中にレタスを植えゆけば母の遺せし合羽はぬくし	群馬県	高橋	恵
約束は大きな星になつてねと命短き夫に言ふ孫	兵庫県	西塚	洋子
牧水に瓜二つとふ孫の君は甲斐犬ともに師の全碑巡る	茨城県	芳賀	佳壽子
とぼとぼと歩めば夫はじぐざぐに蕎麦の花咲くりハビリの道	群馬県	細川	のぶ子
夕暮れて明日は湖底に沈みゆく校舎跡地に焚火赤あか	群馬県	細川	のぶ子
SLのたくましき音梅雨空を掻き分くるごとみなかみに向く	群馬県	番場	正夫
ツアーバスに妻と並びて二日間久方ぶりの会話 と思ふ	群馬県	熊澤	峻
父母 <small>ちちはは</small> の眠れし丘に夕焼の色濃く染まる野甘草の花	群馬県	湯浅	慧子
金婚を目前にして逝きし夫何処を旅してわを待ちにしか	群馬県	増田	津恵
霧の中木道譲り声交わす水芭蕉尋ぬるあくがれの旅	群馬県	増田	津恵
足先に湯たんぽさぐりて思ひ出づわれのみの知る夫の体温	群馬県	松下	昭代

是か非かと書いては消しゆく推敲はセーターほぐして編み直すごと	群馬県	松下	昭代
朝闇を旅籠の御師の被い受け一歩一歩と富士山登る	大阪府	向井	靖雄
白鳥の色に染まざる哀しみは我にもあらん胸の湖底に	愛知県	中村	佐世子
会話さえ叶わぬ妻に面会の受付欄に氏名書き込む	群馬県	深津	一次
石器かも知らず石もて鍬の土落とせば浮かぶ縄文の人	群馬県	深津	一次
農一筋山坂ありて八十年米寿乗越え益々元気	群馬県	深津	幸子
芸能祭月夜野太鼓杓さばき見事な演技拍手何時まで	群馬県	深津	幸子
寒き日に冬になることと勘違ひ夏の暖房褒めそやしけり	群馬県	持谷	靖子
川遊び民話語りの子供等と手つなぎ歩く親の気持ちなり	群馬県	持谷	靖子
春過ぎて寒さの季節消えて行く夏の風吹き手合せ祈る	群馬県	持谷	靖子
三歳児チン・チン電車の床もぐりはてな はてなの身ぶりで語る	群馬県	岸	和夫
父ははの影を偲びつゆく野ずゑ山の田のあり稲の花咲く	群馬県	眞庭	義夫
曇天にほんのひと隅青い空生きる希望を描くみたひに	群馬県	久保田	桂子
二つ耳を仰ぐ狭間に抱かれし牧水歌碑を偲ぶ旅行き	群馬県	光山	半彌
秋冷の茶店に憩ふ独り旅威風へうへう牧水の像	群馬県	光山	半彌
「出しました。届いたはず」のラブレター母は知らぬと頑張り通して	山口県	山縣	満里子
塩浜に三つ四つ小さき虹の立つ海水を撒く海水を撒く	山口県	山縣	満里子
客が言う「腹の底から声を出せ」声より先に手が出そうだよ	岡山県	小橋	辰矢

暮坂の峠を越えし乙女らの声高らかに昼餼に向かう	群馬県	中澤	一貴
六合 ^{くく} 発ちて沢田を過ぎて新治 ^{にい} へ村名は消え牧水は在り	群馬県	中澤	一貴
嬰兒 ^{みどりご} を背負ひ手を引き引揚げし気丈な妣 ^{はは} の今日は命日	群馬県	志田	貴志生
君一人途中下車して四十二年 ^{よんじゅうにねん} の旅は終りぬ古稀すぎし秋	大阪府	松田	美智子
言の葉の本音を探り横顔と指先を見て聞き返す夜	岐阜県	江尻	恵子
村境魔除けの草履風にゆれ古きしきたり和みゆく里	群馬県	木村	初枝
窓開けて山並見れば若葉風読みかけの本めぐり過ぎゆく	群馬県	木村	初枝
わびしさに堪えて旅するあくがれの利根の山川ただに青やか	群馬県	生方	辺秋
越し方を盃に浮かべて彷徨のひとり靜かに三国路をのむ	群馬県	生方	辺秋
けふはここ明日 ^{あす} はあそこと出掛けたし足の向くまま気の向くままに	兵庫県	金田	美恵子
大方の父の役目を終りけり父の日ひとり冷酒酌むなり	群馬県	杉木	輝夫
あばら屋を見おろしている子持山仰ぎ見ているあなたは少女	群馬県	本多	あきお
赤城原 ^{あかぎ} は暮れてあばら屋はいまもそこに立つ北風に出て星を見ようよ	群馬県	本多	あきお
夕映えに染まることなくひまわりは金環蝕のごとかがやきぬ	群馬県	久野	公市郎
検診の結果悪しきを知りたる夜解毒のごとく酒をあほりぬ	群馬県	久野	公市郎
御巢鷹 ^{おすたか} の峰に黙する千葉鶴祈り重ねし人も老いたり	群馬県	久野	とし子
登り来し齡 ^{よわい} の坂にいささかの憩ふ場のあり秋の七草	群馬県	久野	とし子
かくとだに老いて蚩 ^{あは} をなほ愛す熱き心のありてむなしき	群馬県	久野	とし子

トンネルを越え来し聖火吾子が継ぎ三 <small>みくに</small> 国路走しる遠き日のこと	群馬県	品田	幸子
みなかみの峡路をたどりし牧水の雲ながれ逝きまぼろしの影	群馬県	手塚	光子
野や山へ誘ひくるるや木の枝ゆれ工事信号待つ時の間を	群馬県	眞庭	ヨシ子
新緑の榛名山にのぼれば傍らに亡夫のゐるやう榛名湖ひろく	大阪府	熊ノ郷	紀子
「九州の人は」と言はれるそのたびに「本州の人は」と返したかつた	愛媛県	大賀	康男
明日の予定を友に聞かれて恃みなる手帳が頼りの応えとなりぬ	岐阜県	大栗	紀美子
訪ふことの再びなきとアルバムの蔵王の御釜のみどりに見入る	福井県	玉井	令子
庭隅の柚子の白花咲きみちてわずかに匂う朝風の中	群馬県	高橋	吟子
水無月や利根の山脈 <small>やまなみ</small> 濃く雪解水は田畑潤す	群馬県	高橋	吟子
万緑の利根の山脈北の涯 <small>はて</small> 睥睨するかに谷川岳立つ	群馬県	高橋	吟子
みなかみの美 <small>は</small> しき自然に惹かれ来てこころ癒しつ思い出刻む	群馬県	今成	美泉
苦も楽も夫婦となりて半世紀光陰を経て令和の御代に	群馬県	今成	美泉
岩肌 <small>いわたま</small> に小さく生き付く雪の下白き花花雨に濡れつつ	群馬県	吉田	まゆみ
沢下りて一休みする吾の側駒鳥鳴きて岩に止まれり	群馬県	吉田	まゆみ
あさつゆのピイチクないてみつ桜初めて知った天然の味	群馬県	深代	里子
下手くそな短歌も唱歌のあやふやももらった声で臥す老母 <small>はは</small> のそば	群馬県	忽滑谷	三枝子
杜深く喜志子の歌碑は一条の光となりてわれを導く	神奈川県	富田	茂子
八管山 <small>はすげさん</small> さねさし相模の杜深く喜志子の歌碑の息づく如し	神奈川県	富田	茂子

輪郭の歪んで見える夕暮を物の真中に瞳をこらす	群馬県	佐藤	真理子
梅雨晴の空の果てには爽やかに至 ^{しづつ} 仏の山は聳え立ちをり	群馬県	白石	政江
原爆に焼かれし身なれど吾子のため必死に乳を飲ませし母よ	群馬県	白石	政江
雪溶けのひと雫の水集まりて小滝となりつつ尾根流れゆく	群馬県	白石	政江
若き日に彼と呑んではよく聴いた歌が聴きたい「花街の母」	香川県	森本	義臣
泥の付く皮より出でし筍の真 ^{まかな} 愛しきまで肌 ^{はだへ} 膚きよけし	神奈川県	藤原	礼子
旅先で撮った写真のいきいきとまだ歩けた頃の母に笑顔見ゆ	大阪府	小野	まなび
託したる稲田見に行く夫の背に九十四年の歲月刻まれてをり	群馬県	高橋	やま
みなかみの川辺にふわり初ホタル灯りては消ゆる暗号のごと	宮崎県	熱田	民恵
いつまでも水上町綺麗なり奥利根湖と利根川澄んでいる	大阪府	群馬	之川
端正な白を抱えて向いゆく玉川上水はつ夏の午後	群馬県	桑原	環世
銀河まで歩き続けてみたい夜三万光年星が棲む場所	群馬県	桑原	環世
森暗く数百年の幹太し人は息荒く樹々の間走る	群馬県	橘	祥之
咲き初めしたいさん木の花いとし花より脆き人のこころは	群馬県	橘	祥之
ふつくと縮れる大葉の香りたちUターン暮らし正解とする	群馬県	川本	福江
庭を掃く夫に寄り添ひ草を引く二人のびのび老いてゆきたし	群馬県	木村	あい子
田植機の赤きが早苗植えて行く水に映りし雲を掻き分け	大分県	原	ひろし
合 ^{ねむ} 歡の花見上ぐる空を浮き沈む風の自在に逆らいもせで	大分県	木村	弘治

道端に咲きたる花の峠越し今にも飛び立つ様に見えたり	秋田県	二牟礼	勉
特攻は十死一生この不条理な死にあらがふごと蛸とびかふ	東京都	谷川	治
梅雨ふかき峡の八戸に七灯し限界集落に歯止めかからず	東京都	谷川	治
橋の名によすがを偲ぶのみとなる合併に消えし吾が村の名は	東京都	谷川	治
子を育て義父母につかへ生涯を蚕飼ひにつくし母は逝きたり	東京都	谷川	治
「ねえちゃん」とまとはりつきし妹よ継母と去りてその後を知らず	群馬県	高橋	操
明日から俺は卒寿だ心せよステッキ振りふり行く夫を追ふ	群馬県	高橋	操
夕暮れの里道は父母のふところ慕情深むる月美草咲く	群馬県	中島	早苗
さりげなく桜月夜に万葉のわれをさそいて何言わんとす	群馬県	深代	里子
水無月の悠久の雨身に受けて牧の水はむ乳牛をみる	群馬県	小野	俊郎
初越の小道で吹いたオカリナに合わせてひびくどりのさえざり	群馬県	倉田	富夫
旅人のふれあう様にさそわれて画面の中にわれ入り込み	群馬県	倉田	富夫
秋雨のバケツの底に打ちつける過ぎし祭りのお囃子太鼓	群馬県	田中	春枝
ねぎ畑一人草とり帰宅して大きくなったかと父の笑顔	群馬県	小林	はつ江
人生をかけてみたんだ紙芝居みんなの心明るくなあれ	群馬県	宮崎	りえ子
天空をあおぎて見えず星達をおしむ人らに吹くオカリナ	群馬県	倉田	富夫
昼の月存る広場にて葉桜かげ乙女のころの歌ハモル友と	群馬県	星野	芳子
群大理工大学院修士宇宙のブルー胸に初入社万物に感謝	群馬県	星野	晋一郎

認知症の友と会話し歌樂し返りの山道鴉の羽拾ふ	群馬県	星野	波奈子
丸太輪切り庭椅子となし虹見をり牧水の歌口ずさみつつ	群馬県	星野	波奈子
我が孫の我が子に似て来なにごとのふしぎなけれど花一もんめ	群馬県	星野	波奈子
果てしなき無限大の宇宙に想ひよせ我が人生の楽しからずや	群馬県	星野	真輝
イヌワシの気流に乗りし勇壮が利根の自然と残る幸せ	群馬県	番場	正夫
老いたれば業師 <small>わざし</small> の名おも儘ならずファンに惜しまれ土俵去りゆく	群馬県	番場	正夫
退職し戻りて郷に観るものは岳の自然と利根の流れぞ	群馬県	番場	正夫
降りて止みそしてまた降る長梅雨に濁り増し行く利根の水嵩 <small>みづかさ</small>	群馬県	番場	正夫
勝ち越して白星に泣く童顔の肩に膏貼る小兵輝く	群馬県	番場	正夫
混沌の中に眠れる悲しみはいつしか私の象となりて	三重県	樋田	由美
木鋏の鈍き音して枇杷の実は葉ごとくるつと青空に舞ふ	群馬県	木暮	由利子
我が父は境音頭 <small>さかい</small> 制作に奔走し温泉愛した熱血漢	群馬県	新井	恵美子
医療人責任感の母の背に習いて我も薬剤師の道	群馬県	新井	恵美子
揺れ動く思ひを断たむと花咲かぬ庭の桃の木ばさりと伐りぬ	群馬県	石井	省三
子らの歌ふ「ほー蛭こい」と川内川 <small>せんだいがわ</small> 無数飛び交ひ過疎よみがへる	神奈川県	高山	克子
香を彩 <small>いろ</small> に声を形に出来たならあの日の想ひ伝はつたらう	岡山県	山崎	佳奈子
旅人も咽を潤す湧き水の今も残れり丸太椅子あり	長野県	井澤	栄一
まほろばにドロン、ミサイル飛ぶ令和日傘さし行く企業紳士等	岐阜県	加藤	シズカ

詩集入れ辞書を収めて旅に出る重くふくらむショルダーバッグは 間違ひは五つとあるやに見つからぬあと一つはと脳トレ励む	香川県	寒川	靖子
長かりし梅雨も明けよの激しさで雷雨過ぎ行き茜色の町	群馬県	奥村	清美
香流 ^{かな} れゆく水面の花も移ろいて令和なりしも逢はむと思ふ	群馬県	奥村	清美
さくらんぼ最盛期なり注文にうからら集ひ多忙極める	愛知県	伊藤	輝和
同窓と六十年ぶりの江の島鎌倉これぞ修学旅行気分よ	群馬県	小林	博子
長雨に野菜高値となりをれどたつぶり味はふ自給自足は	群馬県	小林	博子
稲作の生育遅るるこの夏の異常低温と長雨憂ふ	群馬県	小林	博子
峠越 ^{いじょう} ゆ一郷の灯のまたたきて一ドルの夜景つつましくあり	群馬県	前原	杏
夏つばき夫が植ゑたる庭のすみ月命日に白き花の落つ	群馬県	岡田	敦子
二人して四季の里山歩きたり今年はひとり紫陽花の中	群馬県	岡田	敦子
朝霧の薄るる中に行き合ふや芒ヶ原の其処此処にこゑ	東京都	堀井	邦子
太宰の碑を下り来たれば映ゆる富士湖 ^{うみ} 抱きつつ夕つ陽に照る	東京都	堀井	邦子
年老いて汗水たらし山仕事喉の渴きに一杯の水	群馬県	岡山	光夫
谷川の分峰駆け降り一滴が大河となりし生命育む	群馬県	岡山	光夫
煎餅をキャッチす鷗いつしかに船を離れて粟島見え来	群馬県	田村	鶴江
花の原跳びだす縞リス吾を見て口に手を当つ大雪 ^{だいせつ} 山背 ^{つせな} に	群馬県	田村	鶴江
幼児の驚く声たつ「青池」の水の青さに暫し息呑む	群馬県	田村	鶴江

大雪山の山道ゆけば又も会ふきつね寂しや吾をおそれず	群馬県	田村	鶴江
手を振れる児へ応へむと小海線窓開け振るや飛び跳ねる児よ	茨城県	飯田	初江
農継ぐ子無くて現役草刈れば絶えしと思ふねじ花咲けり	群馬県	阿部	伊亨
長梅雨に乾かぬ畑の草を引く老鶯鳴きて心慰さむ	群馬県	阿部	伊亨
安美錦けがに耐へたる二十余年土俵をわかせ燃え尽きて去る	福井県	大江	青流
ひと振りにはサヨナラを成し監督のミスを帳消し孝行代打	東京都	遠藤	玲奈
木枯に散りくる落葉「藤原」の風鳴る音も淋しささそふ	群馬県	佐藤	瑞恵
供へおく十三蜷汁湯気ほのか夫のお下がり心温もる	群馬県	神澤	静枝
六月の明けゆく庭に気配する鳥にわたしに今日がはじまる	東京都	高橋	登喜
寂しさを消す薬売り見つけたと告げてあなたが消えた三日月	三重県	田中	亜紀子
朝露に光る胡瓜を挽ぎ終へて六時を知らすチャイムを聴きぬ	群馬県	林	郁男
億光年の青の底からやってきた孤独を見てる無音の夜は	群馬県	大澤	澄代
「今日はちよつと泣くかも知れん」四歳は保育園の前しばし立ちいる	岐阜県	横山	美保子
山深くうす紅色群れ咲ける姫小百合の中少女となりつ	群馬県	石田	恵美子
中央の分水嶺と記のありてこの山の花に未だ魅せらる	群馬県	石田	恵美子
小雨降る産土神の古木よりうぐいす画眉鳥のデュエット聞こゆ	群馬県	石田	恵美子
梅雨さなか旅にて転び顔打ちて五衰身に沁む老いのすべなさ	東京都	竹野	紀子
囲炉裏火の煙の向かうにひよつこりと腰まげて立つ母のまぼろし	東京都	荒井	千枝

麦を干す時季かと思ふ長梅雨に父母の嘆きを聞くごとき雨	東京都	荒井	千枝
あの世では勇と牧水コップ酒北斗の柄杓に閻魔も来たり	高知県	土居	健一
柘榴らの蕾のやうな頑固者老ひて益ます片意地を張る	高知県	土居	健一
息子のメール待てど既読にならぬままようやく一言「大丈夫です」	群馬県	佐藤	静舟
桑畑ひびかせ鳴きぬしにいい蝉いまその声は耳鳴りのなか	群馬県	林	恵美子
あぢさゐの一株百個みづみづと花咲きつづく長雨の中	群馬県	林	恵美子
老いの世や月に一度の短歌会生きぬる実感ありて楽しき	群馬県	林	恵美子
長雨に陽差し少なき日々なれど山あをあとと蝸鳴けり	群馬県	林	恵美子
前垂れを八十路の叔父はきりり締め蕎麦打ちし昔暮坂峠に	群馬県	中島	早苗
万葉の宴の心梅の花令和へ届く千年の旅	群馬県	林	明男
駅への帰路たどりつつ思ふ牧水の学習会に遭ひし彼の人	広島県	小野	系子
初夏告げる天神峠の谷空木微笑みかけるリフトの客に	東京都	長島	勝廣
蛩舞う武蔵の国の国分寺天平の代もかく舞いたるか	東京都	長島	勝廣
紫陽花の花の盛りと梅雨の時期年々広がるミスマッチの怪	東京都	長島	勝廣
空梅雨の紫陽花の葉に隠れたるでんでん虫の角の短かさ	東京都	長島	勝廣
淫雨へと長引く雨が疎ましく泣いてくれるなあ「虎御前」	東京都	長島	勝廣
穴子漁十三ミリの筒の穴稚魚を逃して資源を守る	東京都	長島	勝廣
三男坊新妻連れて里帰り祇園祭りの宵に合せて	東京都	長島	勝廣

喜寿過ぎて生まれし初孫抱くたびに嬉しさ削る腰の痛みに	東京都	長島	勝廣
あの雲の向こうに君は逝けにけり一般山行のプラン残して	東京都	長島	勝廣
ホーホケキヨ庭に飛来し鶯は盛夏の朝に季のずれを鳴く	東京都	長島	勝廣
書を読めば数々の未知解けゆけどこの世が見えぬ若かりし日々	佐賀県	浦田	穂積
途中下車の旅したるやに矢車草枕木の間到低きが咲きぬ	福井県	杉崎	康代
引き出しに見つけし父の肥後の守わが少年期の宝鏝びたり	石川県	前川	久宜
燦めいて春の光に坂東太郎命を育む百代の流れに	群馬県	小畑	吉克
丈低き草木まばらな溶岩台地に野豚黒山羊朝の日を浴む	広島県	杉之原壽美子	
鶯の声美しく流れ来る緑染めなす峰々の奥	群馬県	高倉	榮
若葉風受けて燕が宙返り谷川岳は沢雪の鬩	群馬県	高倉	榮
うすれゆく視力頼みて一步二歩下りてゆくも米寿の坂を	群馬県	青木	ソメ
谷川の瀬音に目覚む山湯宿木々の緑と郭公の声	群馬県	原澤	芳雄
可愛くて触れてみたくて君達に岩合さんの「世界ネコ歩き」観る	群馬県	佐藤	美知子
巡り来る季節を一年待ちわびて春の流れに花筏最る	群馬県	佐藤	美知子
富岡の座繰り体験孫と行く土間で糸繰る妣の浮きくる	群馬県	澁谷	典子
茄子・胡瓜今朝は茗荷も香を放ち夫の菜園家族和ます	群馬県	澁谷	典子
孫と行くラジオ体操小走りに朝のみなかみ空気の旨し	群馬県	澁谷	典子
ご先祖の守り伝えしみなかみの景観・情確と次代へ	群馬県	澁谷	典子

辛きこと乗り込める毎太くなる家族を結ぶ目に見えぬ糸	群馬県	澁谷	典子
外つ国の君と開いたカフェ閉じる最後に君はピザを振舞う	群馬県	ベネット昭子	
君たちは何と言うトンボ？ 楽しげに青田の上をくるくる回る	徳島県	坂東	典子
母見舞ふ岸に群れ咲く野萱草花揺らし吹く風を涼しむ	千葉県	松田	恵子
山吹の手を振るように踊る朝風の楽章あたらしさ呼ぶ	静岡県	井上	充
夏椿の花に飛ぶ蝶窓に見てとぎれし会話の接ぎ穂としおり	福島県	鈴木	桂子
紅葉を水面は映す藤原ダム産土の村湖底にねむる	群馬県	山口	タツ子
杜の前田んぼの後ろ自転車で走る少女はさみどりの風	東京都	古賀	のり子
花びらのふちの形の違ひ言ふ母のこだわり故郷の仙翁	東京都	古賀	のり子
『どうしてるの』何時もは忘れてるけれどふと会ひたいと思ふ雨の夜	群馬県	奥村	清美
水と油交はる事なき母娘なり他人であれば会わづに済むに	群馬県	奥村	清美
長梅雨にダム放流の故郷は濁流となり利根の瀬荒す	群馬県	諸田	弘
エコパーク自然動物奥利根を未来へ繋ぐ課題満載	群馬県	諸田	弘
奥利根の水源の町みなかみは源流まつり賑うダム湖	群馬県	大森	和子
牧水の去り行く姿思ひては「いい日旅立ち」ふと口ずさむ	群馬県	天田	勝元
冬ざれの野に振り向けば夫が居た風にあらがひ夕日背負ひて	群馬県	岡田	正子
町内をペダル踏みゆく小さき旅風花たんぽぽ蝉彼岸花	香川県	上久保	忠彦
かさこそと晩秋の風に鳴る落葉地面に踊り天空に舞ふ	群馬県	保坂	スミ

満月のスポットライト浴びながら今宵私はプリマドンナよ	大阪府	田倉	あけみ
わが植ゑし庭のトマトの熟れ初めて挽きたる孫と会話の弾む	群馬県	湯浅	茂子
田植ゑの泥爪に残して初歌会蠟燭灯る卓袱台丸き	群馬県	湯浅	茂子
戦国の世にも劣らぬ鬨の声パドルをかかげ向かう利根川	東京都	平山	暁生
梅雨冷えの毎日気になる子供達元気だよと返信届く	群馬県	小林	はつ江
終の地と決めし桃源みなかみは自然の恵みと人の情よ	群馬県	遠藤	長代
投票日心に決めた人の名を姑は書くため車椅子乗る	群馬県	本多	美恵子
夏の海ドライブ中に舌鼓高きひかりがたわむれどき	群馬県	篠原	忠
何処いくか？電車の中で夕陽見て長い光が旅の行き先き	群馬県	篠原	忠
会えた日に交わす笑顔と母の背に「長生きしてね」言葉に出せず	群馬県	小林	和子
末摘花 黄花と寄り添うあの人の紅うつろうをただ待ちわびる	群馬県	山崎	杜人
七夕の夜にいつもの喫茶店君は決まってクリームソーダ	群馬県	吉田	まゆみ
親友の重き病の知らせ来る盆の飲み会逢へぬ切なさ	群馬県	吉田	まゆみ
おぼろげな記憶探して目を閉じる君と遊んだ夏会いたくて	群馬県	大山	智也
そっくりと言われる度に照れ笑い我の分身今日も園行く	群馬県	大山	智也
梅雨の夜に遠く聞こえるたいこの音そろそろ頃には夏が本番！	群馬県	大山	真紀枝
はいらないあたまあらわないうあがるビールのんじゃダメアイスはたべる	群馬県	おおよま	はるき
紫陽花の雨に彩るキラキラと雫に浮かぶ父母の顔	群馬県	齊藤	淳子

雨香る紫陽花の花揚々と花好きな母にそつと供える	群馬県	齊藤	淳子
ストローで氷つついてからりと音たてグラス向こうには君	群馬県	篠原	香代
ぽっかりと空いた右側 君の中不可侵地帯地雷が見える	群馬県	塚川	紗妃
心地よい指と指に圧受ける本当に君をスキでもいいの？	群馬県	塚川	紗妃
とりどりに光る電飾にじみだし雪は伝える君は来ないと	群馬県	塚川	紗妃
ちいさくてチョンチョンとエサさがし涙なみだのわが身と同じ	群馬県	深代	里子
碁敵と独居気楽と酌みし日は木の実落つ夜半寝返りを打つ	群馬県	原沢	竹路
驟雨去り雫に光る雨蛙しやがみこむ児の瞳輝く	群馬県	原沢	竹路
月ひとつ胸刺し通す心地して目を伏せ辿る夜明けの道を	秋田県	蓬田	真弓
あなたから失望されていたことに気づけなかった春が遅くて	秋田県	蓬田	真弓
わがままを言いし子供のような夫思ひ出すのが今はうれしい	京都府	鱒本	ミツ子
途絶えたる友の行方を聞く人もなく対岸の貨車を目に追う	群馬県	深澤	みどり
立ち遅れ生きてゆくなり令和をも昔日のままに雲は流れる	群馬県	菊池	悦子
くろぐろと暗渠の底にひろがりし川面は今も光満ちけり	神奈川県	近藤	千壽
かなぶんの亡骸つつむ手のひらはあんずの種ほど柔きふくらみ	神奈川県	近藤	千壽
歌人を追ふがに夫は転勤す六合村・孀恋村・草津・水上	群馬県	白井	清子
ソーダ水ピチピチパチとおしやべりで夏のひと日は早薄れゆく	群馬県	久野	とし華
あじさいの小部屋に満ちし水の玉さもなき風にこぼれ落ちたり	群馬県	久野	とし華

水上の妻をとられし老人 <small>おにいびと</small> よ間もなく注 <small>つ</small> がん酒と涙を	群馬県	岡元	生泉
梅雨曇りにハイビスカスの描かれし湯のみ二つに新茶を注ぐ	群馬県	大竹	春江
六歳には六歳なりの悩みあり登園拒むその目のうつろ	石川県	橋本	美津子
慰問せし介護施設の百歳の男はじいつと、舞台を見つむ	岡山県	三宅	照司
品定め手間と思ひし時あれど幸とて気づく義母亡き母の日	鳥取県	生田	麻也子
ブランコの上にちよこんと雪うさぎ南天の目とユズリハの耳	鳥取県	中本	久美子
牧水を待ちし喜志子と夫を待つわれとは違ふと谷川の冬	秋田県	村田	磨理子
蘇 <small>みとせ</small> る三年の春よクラスの子は担任かこみ輪を解かずぬる	長野県	穂苺	真泉
初夏の樹々の梢の囁きに耳を澄ませば微風 <small>そよかぜ</small> になる	群馬県	山北	信広
利根川に筏を浮かべまどろめばひかりの彩 <small>あや</small> にたまゆら落つる	群馬県	山北	信広
たんぽぽの綿毛は言へり「此処いらで球形くずし消えても良いか」	福岡県	西山	博幸
パンドラの青色蓋を開ける時心臓の爆音宇宙と交信す	宮崎県	青山	昌子
石段を一段一段下りゆけばたどりつけそうな夕焼けの空	京都府	福西	直美
この町からふつと消えたき雨上がり明るむ道をネコ過ぎりたり	京都府	福西	直美
休校でなくて廃校満開の桜は子らを迎へ続ける	大分県	金澤	諒和
小紫のこまかき花をもめぐり飛ぶ働き蜂はすべて雌とふ	滋賀県	俵山	友里
お日さまとお米の味が和合して六腑に沁みる今宵は差しで	兵庫県	柳澤	賢一
「ミッズオクレエ」夏の下校路紺屋にて日びに貫ひし掛け流し水	群馬県	新井	八重子

つつがなき暮らしの朝よ秋風は豆御飯冷ましゆくなり

牧水の未発表の歌寄贈さる図書館で観し太陽の歌

白^{しろがすり}絣の君と歩ゆみし畑^{はた}の道甲斐の山並み遠く仰ぎて

群馬県

宮崎県

奈良県

塚越

中村

大森

小枝

葉月

富士子

第三回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集

令和元年十一月十七日発行

編集／発行 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379-1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321-1

みなかみ町教育委員会内

電話 0278(25)5025



第3回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集

- 開催日 令和元年（2019）11月17日（日） 午後1時開会
会場 みなかみ町カルチャーセンター 群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735
主催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会
共催 みなかみ町牧水会
後援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・群馬県・上毛新聞社・三成社株式会社
おちあいしんぶんマイタウンたにがわ・沼田エフエム放送株式会社
（一財）三国路与謝野晶子紀行文学館

第3回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会
作品集 中学生・高校生の部



第3回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

投稿者数		合計
内訳		
中学生	150人	912人
高校生	762人	1281首
	／	／
	240首	
	1041首	

※作品はすべて原文のまま掲載しました。

第三回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

中学生・高校生の部

入賞・入選

【最優秀賞】 一首

日本一我が県貫く水色の服は大きく袖は多く

利根沼田学校組合立利根商業高校 2年 高橋 陸仁

【優秀賞】 二首

夏の日
は魚を思
いいざ行
くよ魚と
言う名の
恋人に

群馬県立利根実業高等学校 3年 飯村 剛士

昔のね
あなたは
はずつと
ころだっ
た今言わ
れても知
らねんだ
わ

群馬県立利根実業高等学校 3年 宮城 亜美

【特別賞】 二首

《伊藤一彦 選》

みなかみのバンジージャンプ飛ぶ時に見える景色が大自然

みなかみ町立新治中学校 3年 井浦 信

《小島なお 選》

青空に一人で歩く太陽ののろまな帰り僕の休日

みなかみ町立水上中学校 3年 田村鴻之介

【入選】 二〇首

この春で新しくなる友の声夏もこの声樂しめそうだ

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 侑亜

えんがわにすわれれば来たよ動くかけおいでと呼べばワンとほえられ

群馬県立利根実業高等学校 1年 立木 愛梨

水芭蕉風に吹かれるその姿さながら眠るゆりかごの赤子

群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋龍之介

縄文の息を感じる土の色心を宿すその眼の奥に

群馬県立沼田高等学校 1年 平井 謙伸

赤谷川の川原の石を持ち上げてカニがおどろく我が夏の日を

みなかみ町立月夜野中学校 2年 千明 俊生

夏祭り友達つれて出店行き全然当たる気がしないくじ

群馬県立利根実業高等学校 2年 郷原 伯

寝ていたら寝ているようで起きてたら寝ているようですぐ怒られます

群馬県立沼田高等学校 2年 高橋 寿成

ある夏のもっとも熱い夢の国ねずみの中身とてもきつい

群馬県立沼田高等学校 2年 古俣 成聖

音楽を聴きながら待つバス停で見える紫陽花イヤホン外す

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 桜雪

垢ぬける言葉の意味を知らぬまま僕らはきつと垢ぬける

群馬県立利根実業高等学校 1年 後藤 美咲

帰り道隣にならぶ君の目に映る空に嫉妬する我

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 愛真

怖いもの見たくないねと言いつつもなぜか見ている君も怖い

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 将人

中三が今年最後の大会で三敗一勝先生が泣く

群馬県立利根実業高等学校 2年 新妻 飛鶴

満開の四葩よひらの下に雨蛙真つ赤に染まる雲を感じて

群馬県立利根実業高等学校 3年 吉澤 梨緒

さびしいな利根実の門くぐることだって近づく卒業式

群馬県立利根実業高等学校 3年 本多 里美

フワフワでシロップたっぷりカキ氷頭キーンが夏の友達

群馬県立利根実業高等学校 3年 近野 美咲

話し声君かと思つてふりむいた分かつていても二度見てしまう

群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 啓太

夕焼けの道歩いて僕たちは互いの気持ちに嘘をつけない

群馬県立利根実業高等学校

3年

桑原

凜音

海泳ぎきれいな魚が空翔ける鳥のようなきれいな魚

みなかみ町立月夜野中学校

2年

菅沼

祥汰

みなかみのきれいな水で生まれたよいちごにりんごにさくらんぼ

みなかみ町立新治中学校

3年

岡田

天平

第三回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

入賞作品講評

◆ 選者紹介



伊藤 一彦(いとう かずひこ)

昭和十八年(1943)宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、迢空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。



小島 なお(こじま なお)

昭和六十一年(1986)東京生まれ。コスモス短歌会所属。同人誌「coco on」編集委員。歌人である母小島ゆかりの手伝いをして短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学中の2004年に角川短歌賞受賞。その他、現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。歌集に『乱反射』、『サリンジャーは死んでしまった』などがある。現在、日本女子大学講師。

【最優秀賞】

日本一我が県貫く水色の服は大きく袖は多く

群馬県 利根商業高校2年 高橋 陸仁

河川の規模が最大級の利根川を歌った作で、「水色の服」に見立てたのが若々しく素晴らしい。支流を「袖」にたとえたのも巧み。迷わず最優秀賞に推した。

【優秀賞】

夏の日魚を思いいざ行くよ魚と言う名の恋人に

群馬県 利根実業高等学校3年 飯村 剛士

釣りをするのか、泳ぎにいくのか。いずれにしても魚を恋人とする作者の夏はどんなときめきに満ちているのでしょうか。牧水の短歌を思わせる力溢れるリズム。

昔のねあなたはずっとこうだった今言われても知らねえんだわ

群馬県 利根実業高等学校3年 宮城 亜美

作者にむかって「昔のねあなたは」と言ったのは親だろうか、友人だろうか。どちらでも面白いが、作者の返答の言葉が面白い。とぼけた言い方にユーモアが出ている。

【特別賞】

◇伊藤一彦 選

みなかみのバンジージャンプ飛ぶ時に見える景色が大自然

群馬県 新治中学校3年 井浦 信

さすが若い人の歌で、感心した。高い橋の上から命綱一本で飛び降りるとき、身も心も自然に包まれ、抱かれている感じを味わうのだ。リズムも力強く爽やか。

◇小島なお 選

青空に一人で歩く太陽ののろまな帰り僕の休日

群馬県 水上中学校3年 田村 鴻之介

太陽はいつも一人きりでゆつくりと青空を歩いている。そののろまな速度に合わせるように僕の休日の時間も流れてゆくのです。豊かで自在な空の詩。

第三回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

作品集
(中学生・高校生の部)

○中学生・高校生の部 912人 1284首

※作品は原文のまま掲載してあります。ご了承ください。

利根川の原流流れるわれの里山で遊ぼう水でやすもう	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高柳 凌
夏休みみんなでお祭りのたいこの音が大きく響く	みなかみ町立月夜野中学校	2年	佐野 弘季
利根赤谷みなかみ持ちまえ気高きペア一見思うは懐しの古里	みなかみ町立月夜野中学校	2年	塩野 玲奈
栗島のいつも迎えてくれるやさしい海最高の海の幸まだがんばれる	みなかみ町立月夜野中学校	2年	横山ほのか
雨上がり雨粒にぬれる紫陽花はもう枯れはてて梅雨が明ける	みなかみ町立月夜野中学校	2年	林 莉央
夏の朝孤独に揺れてる向日葵は寂しからずや哀しからずや	みなかみ町立月夜野中学校	2年	林 莉央
歴史の地時は流れて蛍住まう清流の地となる我故郷	みなかみ町立月夜野中学校	2年	馬場 理花
空の青山の頂上白き雪みなかみ誇る一ノ倉沢	みなかみ町立月夜野中学校	2年	田村 紗弓
清流にまたたくホタルふわわり闇夜を照らす道案内	みなかみ町立月夜野中学校	2年	田村 紗弓
闇夜飛ぶ蛍の小さな光から町の緑の豊さが分かる	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高橋 璃鈴
君想い眠れぬ夜に外見れば蛍飛び立ちあわく輝く	みなかみ町立月夜野中学校	2年	佐藤 鈴生
水遊び友と行った暑い夏笑いと冷たい水におぼれる	みなかみ町立月夜野中学校	2年	佐藤 鈴生
虫の声音色が変わる夕ぐれに少しつかれた心いやされ	みなかみ町立月夜野中学校	2年	櫛渕 李桜
ある冬の朝谷川岳をふいに見るきれいに見えた一瞬の景色	みなかみ町立月夜野中学校	2年	木村 彩姫
温泉と三国街道宿場町今 <small>こんじやく</small> 普通じて癒やし <small>の町</small>	みなかみ町立月夜野中学校	2年	川田 美空
利根川の浮かぶボートに水しぶき鳶羨む夏の昼中	みなかみ町立月夜野中学校	2年	川田 美空
夏の夜そよ風にのりふうりんがチリンチリンと鳴りひびく	みなかみ町立月夜野中学校	2年	金子 優星
青い海きらきら輝く白い波みあげる空に雲ひとつ無し	みなかみ町立月夜野中学校	2年	金子 優星
春つばみ咲き桜満開キレイな花びら散つてまう	みなかみ町立月夜野中学校	2年	小野つゆき
冬は白き雪の降る結晶が輝き点々とうち光りて	みなかみ町立月夜野中学校	2年	小野つゆき

虫の音につられて今年も光りだす蛍の光月夜の町に	みなかみ町立月夜野中学校	2年	石坂	真優
風鈴の音よりきれいな夏の音ガラスとこおりのカランという音	みなかみ町立月夜野中学校	2年	石坂	花恋
夏休みあつという間に最終日憂鬱胸に準備を初める	みなかみ町立月夜野中学校	2年	山崎	快斗
暑い夏日かげにいても汗が出るエアコン無しでは生きていけない	みなかみ町立月夜野中学校	2年	中村	悠世
ただの水だけどとつてもおいしいよなぜなら気温は三十一度	みなかみ町立月夜野中学校	2年	中村	悠世
先輩の背中を見てた部活動今度は僕が背中を見せる	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高柳	壮汰
夏の昼夜とは違いセミの音うるさくなれば暑い一日	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高柳	壮汰
キャンプは楽しきものと思っらしい一歳児は知らず難民キャンプ	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高橋	優斗
朝起きて「おはようございます」のメール見てそれに答える返事がない	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高橋	優斗
熱い中夢舞台で駆け回る高校球児の熱き夢	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高井	真宙
尾瀬合宿宿舎で過ごしたひと時は楽しい時間だった	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高井	真宙
この地に流れる利根川の美しき流れは美き響きで心地良い	みなかみ町立月夜野中学校	2年	金子	然土
谷川の常に白きに美しきその風景は絶景だ	みなかみ町立月夜野中学校	2年	金子	然土
利根川の川のせせらぎ鳥のこえ永遠 <small>とわ</small> につづけうつくしさよ	みなかみ町立月夜野中学校	2年	小野	凌平
暑い夏アイスを食べしてのいだ夏休み	みなかみ町立月夜野中学校	2年	小野	凌平
青空走る少年の息音聞いて僕たちのやる気あふれて元気な地球	みなかみ町立月夜野中学校	2年	阿部	桔平
空高く響く真夏のせみしぐれふわりふわりと飛ぶトンボ涼しさ運ぶ	みなかみ町立月夜野中学校	2年	我妻	璃一
夏空のじつと暑さにたえながら甘くなるよと待つトマト	みなかみ町立月夜野中学校	2年	我妻	璃一
魚つりあまりつれない川釣りで本当につれなくてあきらめた	みなかみ町立月夜野中学校	2年	原澤	淳朗
世界が認めたみなかみを僕らが守るこの自然	みなかみ町立月夜野中学校	2年	倉澤	樹輝

太陽の放つ光の輝きは利根川と共に清く流れる	みなかみ町立月夜野中学校	2年	齊藤	舞
晴た日のキラキラ輝く赤谷川何年経つても輝き続ける	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高橋	愛音
ホタルが光り輝く清流は星光る夜に負けない景色	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高橋	愛音
すき通る青く輝く利根川の水辺の子供見夏を感じる	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高橋	一禾
ほたる飛び交うふるさとの夜空に出し上弦の月	みなかみ町立月夜野中学校	2年	松原	由依
ふるさとの川のせせらぎにかわせみがうたいひびくあおいそら	みなかみ町立月夜野中学校	2年	眞庭	桃佳
一年で色々な事があつたけど改めて気付く友の大切さ	みなかみ町立月夜野中学校	2年	山之内	知夏
青空に白く輝く谷川が光を照らすみなかみの地に	みなかみ町立月夜野中学校	2年	湯本	真央
澄んだ空いざ出陣全力で戦い頬伝う涙は次に繋がる第一歩	みなかみ町立月夜野中学校	2年	芳澤	夏姫
青い空気合入れいざ出陣戦い破れ頬伝う	みなかみ町立月夜野中学校	2年	芳澤	夏姫
外白し湯気がたくさんみなかみはゆつくりしよう温泉で	みなかみ町立月夜野中学校	2年	金子	門土
青々と生い茂る森風たちも動物達もにぎやかな町	みなかみ町立月夜野中学校	2年	櫻井	玲維
川の音心がすむ夏の日に落ち着く人の山の中で	みなかみ町立月夜野中学校	2年	菅沼	祥汰
虫の音も鳴り響く町みなかみは今日も静かに日は沈みゆく	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高橋	元輝
利根の源流と利根の源泉をふみしめ歩いたみなかみ町	みなかみ町立月夜野中学校	2年	高橋	優雅
川と山自然の豊かなこの町は空気もきれいでめっちゃ生きやすい	みなかみ町立月夜野中学校	2年	増田	賢志朗
みなかみの自然の多きこの大地我が故郷はかけがえのない	みなかみ町立月夜野中学校	2年	増田	陽介
利根川の川原の石を持ちあげてサワガニおどかし我が夏の日よ	みなかみ町立月夜野中学校	2年	眞庭	駿典
大峰の沼にひそみしエメラルドモリアオガエル我らが宝	みなかみ町立月夜野中学校	2年	阿部	百葉
谷川を母とし流るる利根川の流れに育む数多の命	みなかみ町立月夜野中学校	2年	阿部	百葉

夕闇にほのかに光輝けば美しきかな蛍の訪れ
 名胡桃なぐるみの城から降りる篠笛に故人を想ふ我が心
 谷川の白くつもる白雪のあさ日がさしていと美しく
 夏に咲くニッコウキスゲの美しさ三国山のすばらしさ
 みなかみの自然の象徴イヌワシのキズナとキボウ赤谷あかやの森に
 羽ばたけば目もとまらず速さで空かけるイヌワシよ
 見渡せば緑広がり心落ち着くみなかみ町
 古き良きたくみがつどうみなかみ町のたくみの里
 谷川の自然とともに生きているみなかみ町の中学生
 涼しさや三国の山と赤谷湖あかやの自然豊かな水上の町
 関東の水を潤す赤谷湖あかやと水を生みだす大水上山
 イヌワシは王者を名のる赤谷あかやの主
 赤谷湖あかやの水面みなもに映る星空と花火の共演広がる未来
 空あれる天努いかりくるう雨の空晴れば空ににじ橋かかる
 利根川に轟音を出す水しづき流れ行くのはラフティング
 関東を潤す河川利根川は首都を守る雪尽きるまで
 みなかみ通る利根川は透き通り町民の命の川
 矢瀬遺跡やせと名胡桃城なぐるみじょうはみなかみの誇れる歴史の名所
 生き物と人間たちが共生しいい生きているのがみなかみだ
 大小数々な命を生かし守る赤谷あかやの森は自然を愛す場所

みなかみ町立月夜野中学校 2年 伊藤 友利
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 小林 詩奈
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 井浦 真希
 みなかみ町立新治中学校 1年 下條 睦斗
 みなかみ町立新治中学校 1年 今井 治翔
 みなかみ町立新治中学校 1年 今井 眞大
 みなかみ町立新治中学校 1年 今井 眞大
 みなかみ町立新治中学校 1年 加藤 陸
 みなかみ町立新治中学校 1年 小林 唯人
 みなかみ町立新治中学校 1年 竹田 壮太郎
 みなかみ町立新治中学校 1年 竹田 壮太郎
 みなかみ町立新治中学校 1年 富沢 竜也
 みなかみ町立新治中学校 1年 萩原 舞土
 みなかみ町立新治中学校 1年 林 良馬
 みなかみ町立新治中学校 1年 林 怜央
 みなかみ町立新治中学校 1年 林 怜央
 みなかみ町立新治中学校 1年 本多 陽
 みなかみ町立新治中学校 1年 本多 陽
 みなかみ町立新治中学校 1年 石橋 知歩
 みなかみ町立新治中学校 1年 木内あやか

みなかみの動物守るイヌワシを大切に する豊かな自然	みなかみ町立新治中学校	1年	高橋	心音
大切な動物たちと自然赤谷の森を みんなで守る	みなかみ町立新治中学校	1年	高橋	心音
桜咲き田んぼに映る谷川の我がほこ る美しき山	みなかみ町立新治中学校	1年	林	佳生菜
友達とやつと遊べる夏休み山へいつ たり川へいつたり	みなかみ町立新治中学校	1年	林	佳生菜
みなかみの山に囲まれしこの土地に 自然の物との共存を	みなかみ町立新治中学校	1年	原澤	美月
みなかみの澄んだ空気とよき自然ど ちもあつて良い町だ	みなかみ町立新治中学校	1年	藤島	美苑
赤谷の森に舞つて空高く飛んでるの は鳥の王者イヌワシだ	みなかみ町立新治中学校	1年	藤島	美苑
たくさんの虫が奏でるオルゴール四 季を彩る音楽隊	みなかみ町立新治中学校	1年	細矢	千尋
水や自然の大切さ四季折々の美しさ 知る事できるみなかみ町	みなかみ町立新治中学校	1年	柳	美紅
クマやサル人と人共存してる自然豊 かなみなかみ町	みなかみ町立新治中学校	1年	柳	美紅
鳥の声木の香りにさそわれてまた行 きたくなる谷川岳登山	みなかみ町立新治中学校	1年	山崎	心優
夏の夜田んぼに光るホタル達源氏と 平家飛び交うみなかみ	みなかみ町立新治中学校	1年	本多心乃美	
みなかみの春夏秋冬四季全て歓迎の 品いたるところに	みなかみ町立新治中学校	1年	岡田虎太郎	
赤谷湖の水面に写る四季の山々まぶ たに浮かぶ我がふる里	みなかみ町立新治中学校	1年	折茂	奏汰
森多き動物多きすみやすい自然が豊 かなみなかみ町へ	みなかみ町立新治中学校	1年	北野	佑輔
空高く舞うイヌワシのすみやすい自 然が豊か赤谷の森に	みなかみ町立新治中学校	1年	北野	佑輔
みなかみはイヌワシか飛ぶ大空で赤 谷の森は王者の庭	みなかみ町立新治中学校	1年	櫻井	崇道
みなかみの自然豊かな谷川岳が産ん だ湧水	みなかみ町立新治中学校	1年	櫻井	崇道
エコパーク世界に届けみなかみの豊 かな自然とすてきな笑顔	みなかみ町立新治中学校	1年	塩谷	神温
エコパーク水と緑のふるさとをみな なでつなぐ未来に向けて	みなかみ町立新治中学校	1年	塩谷	神温

朝起きて聞こえる音は鳥の声自然の中で暮らす生活	みなかみ町立新治中学校	1年	高橋 蓮
どこまでも緑が続く山並みと青き空にはイヌワシが飛ぶ	みなかみ町立新治中学校	1年	高橋 蓮
遠くから聞こえてくるは鳥の声気高きワシは中をまう	みなかみ町立新治中学校	1年	林 双葉
歩いては見とれる景色そこかしこ自然が作る美術館	みなかみ町立新治中学校	1年	林 柁希
イヌワシとカモシカ猿にキジウサギみんな仲良し自然の和	みなかみ町立新治中学校	1年	林 柁希
みなかみは豊かな自然に囲まれて空気の清さ水のおいしさ最高さ	みなかみ町立新治中学校	1年	原澤 鈴央
古き良き匠が集う里と里自然もありしエコパークかな	みなかみ町立新治中学校	1年	本多真那土
見渡せば緑の山々その先に共生していく動物達	みなかみ町立新治中学校	1年	釵持 由佳
みなかみはほたるの川が流れてる水のせせらぎみどりの世界	みなかみ町立新治中学校	1年	小池 涼風
みなかみへいちはおいでいいところ思い出づくりに家族旅行	みなかみ町立新治中学校	1年	小池 涼風
関東から日本海へ嚮後を守り生命繋げる必須の出所は利根の水	みなかみ町立新治中学校	1年	下城 空
みどりいろ見わたす限り見えるキレイなみどり	みなかみ町立新治中学校	1年	下城 美紗
空を翔ぶ王者イヌワシ赤谷の森にみなかみ町の宝物	みなかみ町立新治中学校	1年	関 美優羽
踏みしめた三国街道その道は先人たちの通り道	みなかみ町立新治中学校	1年	林 真子
温泉の湯気がひきたつ湯宿ではいつもどこかで水の音が鳴りひびく	みなかみ町立新治中学校	1年	原澤 悠里
耳をすませば小鳥の合唱ひびきわたる	みなかみ町立新治中学校	1年	原澤 悠里
山のかげからさしのぼるオレンジ色の明るい光	みなかみ町立新治中学校	1年	原澤 悠里
自然が豊かみなかみ町は空気や水もキレイで体験沢山	みなかみ町立新治中学校	1年	原澤 悠里
何もない何も無いけど何かあるそれはきつと山と気持ち	みなかみ町立新治中学校	1年	原澤 悠里
赤谷湖に映っているのは逆さ富士だと思ったらみなかみの山	みなかみ町立新治中学校	2年	原澤 悠里

暗い森小鳥たちが眠ってる朝になればさわぎだす	みなかみ町立新治中学校	2年	釘持	愛
清い川流れる風と現われるこの川好きだこの町好きだ	みなかみ町立新治中学校	2年	釘持	愛
みなかみの豊かな自然認められ嬉しく思うユネスコエコパーク	みなかみ町立新治中学校	2年	飯島	英心
ホタルあり夜の景色が美しいここだけにある星動く道	みなかみ町立新治中学校	2年	飯島	英心
谷川の山が着ている白い服無くなるさまのうつくしきかな	みなかみ町立新治中学校	2年	島田	大輝
紅葉 <small>こうよう</small> の紅 <small>あか</small> に染まりし赤谷湖 <small>あかや</small> の湖面の波よすばらしき	みなかみ町立新治中学校	2年	島田	大輝
谷川の上から来てるこの水は雪がとけた天然の水	みなかみ町立新治中学校	2年	河合	蒼太
夜の川ピカピカ光る空間は蛭 <small>むし</small> どうしが遊んでいるな	みなかみ町立新治中学校	2年	河合	蒼太
谷川の険しき山は武士ごとく我が町の山は美しき	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
我が流派美しき型は人目奪う千年残れ神道一心流	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
エコパーク山と水に囲まれた自然に染まる輝く地	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
数々の動物たちと人間が共存したみなかみ町	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
黒々と川に写りし山の陰そこに隠れるふるさとの愛	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
山の中もよりのコンビニ遠いけど自然の中に美が見れる	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
見渡せば自然豊かなこの町の空気の良さは特別だ	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
山の色季節の変わりめ知らせませす春の桜や冬の雪景色	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
夜の空きれいに浮かぶ星の川豊かな自然ここにありけり	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
一年中アウトドワスポーツ楽しめるここが我らの観光スポット	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
天然の温泉わき出る山々は疲れがとれて景色満さい	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春
みなかみの自然あふれる山たちは季節のたびに変わるながめに	みなかみ町立新治中学校	2年	福井	春

青空に生える緑と人間の共に奏でる協奏曲				
青空の下で輝く人間の笑顔と共に虫の鳴き声				
みなかみは緑も多く美しい水もきれいなふるさとだ				
赤谷湖 <small>あかや</small> にきれいな花火打ち上がる夏の終わりが近づいている				
みなかみの山から見える景色では自然の流れがあふれでている				
紅葉の葉を映しだす赤谷湖 <small>あかや</small> はうつくしき色うつしだすかな				
月明り共にてらすはもう一つホタルの光真夜中へ				
かなでるは小さな合唱鳴り響く夏の夜から				
拡大 <small>こうだい</small> な空に広がる星の海真つ暗な夜を照らす電灯がわり				
夏の夜静かな空に鳴りひびく雷の音と虫の歌声				
赤谷湖 <small>あかや</small> の水面 <small>みなも</small> に映る紅葉 <small>もみじ</small> の木とても美しきみなかみの山				
利根川の源流流れる我が町を木々潤すみなかみの水				
みなかみ町都会に比べ大自然田舎と感ずるその瞬間				
緑のダム雨水きれいになっていく地下を流れて飲める水に				
みなかみのホタルはすぐきれいだな夜の暗さに緑の光				
みなかみの川辺輝くホタルの灯川 <small>ひ</small> に写って美しい				
新治は人が優しく笑顔あり自然豊かで果実あふれる				
みなかみは水がきれいで都会より果実おいしく緑あふれる				
山の奥したたる水のおくりものこの力は生命も救う				
イヌワシが生活している赤谷 <small>あかや</small> にはみなかみくつしの自然あり				
みなかみ町立新治中学校	2年	小池	花音	
みなかみ町立新治中学校	2年	小池	花音	
みなかみ町立新治中学校	2年	原沢	龍斗	
みなかみ町立新治中学校	2年	原沢	龍斗	
みなかみ町立新治中学校	2年	本多	柊翔	
みなかみ町立新治中学校	2年	本多	柊翔	
みなかみ町立新治中学校	2年	安達	明莉	
みなかみ町立新治中学校	2年	安達	明莉	
みなかみ町立新治中学校	2年	原澤	秀太郎	
みなかみ町立新治中学校	2年	原澤	秀太郎	
みなかみ町立新治中学校	2年	富沢	大翔	
みなかみ町立新治中学校	2年	富沢	大翔	
みなかみ町立新治中学校	2年	塩谷	拓人	
みなかみ町立新治中学校	2年	塩谷	拓人	
みなかみ町立新治中学校	2年	塩谷	拓人	
みなかみ町立新治中学校	2年	木檜	幸祐	
みなかみ町立新治中学校	2年	木檜	幸祐	
みなかみ町立新治中学校	2年	大坪	由里菜	
みなかみ町立新治中学校	2年	大坪	由里菜	
みなかみ町立新治中学校	2年	村山	耕汰	
みなかみ町立新治中学校	2年	村山	耕汰	
みなかみ町立新治中学校	2年	村山	耕汰	

利根川の上流ありしみなかみは日本一水がおいしい町	みなかみ町立新治中学校	2年	森下 諒司
みなかみの自然はとも美しくユネスコエコパークに登録された	みなかみ町立新治中学校	2年	森下 諒司
みなかみの多くの緑その中に存在するは多くの命	みなかみ町立新治中学校	2年	伊勢野煌凌
山の顔春夏秋冬四変化 <small>よんへんげ</small> 季節でちがう山の表情	みなかみ町立新治中学校	2年	伊勢野煌凌
利根川にキラキラ流れるこの水は雪溶け水の天然水	みなかみ町立新治中学校	2年	田村 流聖
この町の森の中にはたくさん動物たちが生きている	みなかみ町立新治中学校	2年	田村 流聖
里を出て恋しく思うみなかみの立つ山々の緑とかおり	みなかみ町立新治中学校	2年	石飛 樹
みなかみのホタルの光美しき夜空に浮かぶ星々のよう	みなかみ町立新治中学校	2年	石飛 樹
真夜中にあたりを照らす月明かり外灯替わりに道照らす	みなかみ町立新治中学校	2年	金井 悠真
夏休み計画通りに進まない宿題の山後悔ばかり	みなかみ町立新治中学校	2年	金井 悠真
冬の空まわりを見れば真っ白の山の頭に降る新雪	みなかみ町立新治中学校	2年	塩原 佑弦
山の色紅葉色 <small>こうようしき</small> に染まる秋赤黄緑色鮮やかに	みなかみ町立新治中学校	2年	塩原 佑弦
わが町の水の風景山の中自然の水が山々に	みなかみ町立新治中学校	2年	林 楓太
山の中水や自然が町の中山々の風景みなかみ町	みなかみ町立新治中学校	2年	林 楓太
険しい山そびえてるのは一高く雪 <small>ひとたか</small> つけるのは谷川岳	みなかみ町立新治中学校	2年	林 楓太
赤谷湖 <small>あかや</small> の水中に写る山々はきれいな空気生み出している	みなかみ町立新治中学校	2年	平塚 輝
キラキラと光ってみえるこの森はわが県ほこる尾瀬ヶ原	みなかみ町立新治中学校	2年	平塚 輝
森だらけ人間からはそうみえる動物からは住みやすい町	みなかみ町立新治中学校	2年	阿部留美奈
登下校傘をさして見る景色しづくを着飾る緑の草木	みなかみ町立新治中学校	2年	阿部留美奈
夏の夜外から聴える虫の鳴 <small>ね</small> の心落ちつくふるさとの音	みなかみ町立新治中学校	2年	泉 雪結

みなかみの宝の山を背景に飛び立つ鳥の美しきかな	みなかみ町立新治中学校	2年	星野 環
かなかなが鳴き出すときに谷の青透き通った水の音	みなかみ町立新治中学校	2年	赤井 月
肝だめし夏の定番誰か泣くしかし最後は笑って帰る	みなかみ町立新治中学校	2年	根岸 賢史
夏休み気温が高く大変だこまめに水分忘れずにとる	みなかみ町立新治中学校	2年	根岸 賢史
外に出て辺りを見渡し思うこと自然のおかげで豊かな暮らし	みなかみ町立新治中学校	3年	高橋 姫華
みなかみの緑あふれるその先は暮らしにかかせぬ宝の倉庫	みなかみ町立新治中学校	3年	高橋 姫華
空川の青に周りの緑とが表す風景私のふるさと	みなかみ町立新治中学校	3年	田村のぞみ
一目見てきれいと思える景色たち私の心をやわらかくする	みなかみ町立新治中学校	3年	田村のぞみ
清らかな川ときれいな星空と大きな山とふるさとの町	みなかみ町立新治中学校	3年	林 倅輝
虫とりに魚つかみに遊び自然に包まれ笑顔あふれる	みなかみ町立新治中学校	3年	林 倅輝
澄んだ水同じボートで仲睦まじく自然を肌で感じる日	みなかみ町立新治中学校	3年	原澤江梨子
広い空イヌワシのように空を翔けていく	みなかみ町立新治中学校	3年	原澤江梨子
夕暮れに稲穂を揺らす風当たり少しひんやり夏も終わりへ	みなかみ町立新治中学校	3年	本多 菜摘
吹奏楽三年間の思い出は忘れられない思い出になる	みなかみ町立新治中学校	3年	本多 菜摘
春夏秋冬あの美しい赤が目立つ景色の中にあるさんさん橋	みなかみ町立新治中学校	3年	藤井 莉音
空気・水・景色・食べ物なんでも美しく町の人に愛されるみなかみ町	みなかみ町立新治中学校	3年	藤井 莉音
美しいみなかみ町の大自然きれいな川にきれいな空気	みなかみ町立新治中学校	3年	井浦 信
みなかみのうつりゆく四季見おろせば今も昔も変わらぬ郷よ	みなかみ町立新治中学校	3年	久保結梨夏
ホタル舞う澄んだ川岸みなかみの自然をうつす美しき鏡	みなかみ町立新治中学校	3年	久保結梨夏
美しきみなかみの自然が輝き見る人全てを感動させる	みなかみ町立新治中学校	3年	小池 諒祐

みなかみの美しき森見てみれば王者イヌワシ現れるだろう	みなかみ町立新治中学校	3年	小池 諒祐
四季の声豊かに実る日本でも活き活きとしたおらが里	みなかみ町立新治中学校	3年	宮崎 正光
セミの声激しく渡りひびいては夏を感じる今日この頃	みなかみ町立新治中学校	3年	宮崎 正光
みなかみの燃える紅葉白き雪忘れられない十四年間	みなかみ町立新治中学校	3年	櫻井 琴望
朝焼けが山の谷間にのぼりくる都会では見ぬ太陽の輪かく	みなかみ町立新治中学校	3年	櫻井 琴望
赤谷の森でたくさんの動物と楽しく戯れる	みなかみ町立新治中学校	3年	神保 育美
笑顔溢れる赤谷の美しい森で神秘の光を嗜む	みなかみ町立新治中学校	3年	神保 育美
みなかみの美しき水作り出す美しき自然守り続ける	みなかみ町立新治中学校	3年	林 修冬
みなかみの緑を生かす観光業今も残る関所跡など	みなかみ町立新治中学校	3年	林 修冬
みなかみの深い緑と青空に囲まれ生きる我らが里	みなかみ町立新治中学校	3年	長谷川 環
全力で戦い抜いたこの夏はみなかみの地に光もたらす	みなかみ町立新治中学校	3年	長谷川 環
透きとおる赤谷湖は町の人の心も美しくする	みなかみ町立新治中学校	3年	木内はるか
水がきれいなみなかみは水道水も飲める	みなかみ町立新治中学校	3年	木内はるか
夏の空湖青く空青く自然の中のみなかみ町	みなかみ町立新治中学校	3年	川田 乃愛
みなかみの自然に住まう動物はみな美しくきれいな	みなかみ町立新治中学校	3年	佐藤 卓哉
ホタル舞うすんだ川の美しさ魚も住むほどきれいな	みなかみ町立新治中学校	3年	佐藤 卓哉
朝の目覚めはセミの声七日の人生セミ達は何をうったえているのだろう	みなかみ町立新治中学校	3年	永井 楓葉
自然や空気全てに恵まれくらす者胸を張ってくらしつつける	みなかみ町立新治中学校	3年	阿部 七音
赤谷湖に映し出される風景は人々が作った歴史である	みなかみ町立新治中学校	3年	阿部 七音
もう夏か夏を呼ぶ蝉今日も暑い夏を蝉が呼んでる	みなかみ町立新治中学校	3年	阿部 七音
	みなかみ町立新治中学校	3年	繁山 海莉

夏休みついにはじまる受験夏が勝負暑さに負けぬ	みなかみ町立新治中学校	3年	繁山 海莉
森の中昆虫ただよう生き場所は赤谷 <small>あかや</small> の森がとてもピツタリ	みなかみ町立新治中学校	3年	中村吏玖斗
みなかみ町みんな優しくみんないい人の心は水のようにだ	みなかみ町立新治中学校	3年	中村吏玖斗
みなかみは空気がきれいで水もきれい守りつがれる自然の豊かさ	みなかみ町立新治中学校	3年	小山 諒也
イヌワシは自然にまもられ生きていますイヌワシがいる自然の豊かさ	みなかみ町立新治中学校	3年	小山 諒也
谷川の水の恵みはみなかみに清き水の感謝をここに	みなかみ町立新治中学校	3年	岡田 天平
自然との共生果たすみなかみにもはや静けさの気配なし	みなかみ町立新治中学校	3年	角田 陽生
地域との関係根強いふるさととは心から思う我の故郷	みなかみ町立新治中学校	3年	角田 陽生
谷川岳動物と人が協力するみなかみ町に	みなかみ町立新治中学校	3年	渡部 凛
ふるさととはみんなが帰える場所なんどでも	みなかみ町立新治中学校	3年	渡部 凛
ホタル飛ぶ漆黒の空吸い込まれ満天の星SLの煙	みなかみ町立新治中学校	3年	渡部 凛
山ウサギ白いのに赤捕われた赤谷 <small>あかや</small> の森は白いのに赤	みなかみ町立新治中学校	3年	田村 大翔
夏の空照りつける日はあついで川のせせらぎセミ達の声	みなかみ町立新治中学校	3年	田村 大翔
みなかみの自然あふれるこの森でバンジージャンプに川くだり	みなかみ町立新治中学校	3年	平田 優真
自習室蟬の音エアコンペン回しあくびをかまし転がり落ちる	みなかみ町立新治中学校	3年	平田 優真
風疾走夏草揺れて雲歩く猛暑いつまで続くことやら	みなかみ町立新治中学校	3年	田村鴻之介
短夜に見ゆる水面蛍火の動く姿は流星のよう	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	倉田 莉	倉田 莉
短夜に見ゆる水面星浮かび動き回るは蛍の光	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	鈴木 瑠那	鈴木 瑠那
川の音夏い夏を忘れさせ暗くなれば蛍光輝く	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	倉田 莉	倉田 莉
暑い日々汗ふきシート減る一方家のエアコン至福のひと時	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	齋藤 彩花	齋藤 彩花

SNS 幸せそうな人ら見て締めつけられる私の心

夕暮れどきのセミたちが自分の声を自慢するまるで夏の演奏会

暑い夏の中で運動した後のシャワーの幸せまさに最高の瞬間

夏休み暑い光に照らされて緑輝くみなかみの山

夏休みあとであとでと思つたらあつというまに最終日

どこみても周りを見れば山だらけみなかみにしかない景色

雨上がり風にゆられる風鈴の音にゆられてこころやすらぐ

見上げれば空一杯の花火かな夕涼みせむ君と二人で

青嵐吹き飛ばしたる麦わら帽川面に流るを拾い給う君

青春は花火のように一度きりぱつと輝いて美しきもの

声がするそれを辿れば人々がふと思いつくああなんて幸せ

笑う君いつも輝くその笑顔それは眩しい夢である

夏休み家ぞくみんなのでかけようそこにはいろいろあるかもね

見上げれば空一杯に花火かな風は涼しく浴衣くすぐる

月影の涼し今宵は浴衣着て夕涼みせむ君と二人で

川沿いで寝転び見上げる夏の夜散った花火に寂しさ残る

「がんばれ」と何気に言われたこの言葉私の心に深く刺さる

あき風や日本の国の稲の穂の酒のあぢひ日にまさり来れ

かんがへて飲みはじめたる一合の二合のさけの夏のゆふぐれ

日本のナイアガラとも言われてる吹割れの滝迫力満点

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 齋藤 彩花

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 木檜 亜美

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 木檜 亜美

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 中島 一颯

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 中島 一颯

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 原澤 真歩

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 金子竜之介

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 金子竜之介

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 戸丸 愛翔

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 戸丸 愛翔

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 原澤 絵梨

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 原澤 絵梨

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 木村 怜央

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 阿部 怜那

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 阿部 怜那

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 本多 留依

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 本多 留依

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 周 楷倫

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 周 楷倫

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 小田嶋 凜

夏休み青春いっぱいしてるかな夏はたくさん遊びたいもの
 夏休み長くみえて風とともに過ぎ去っていく
 夏空に映えるは花火夜の空眺めていれば自然消滅
 暑き日に鳴り響くのはセミの声それに負けじと川の波音
 矢の音と共に聞こえる的の音友と一緒に高みを目指す
 赤とんぼ野原を自由に飛びまわるふいに感じる秋の訪ずれ
 雪降れば辺り一面美しい谷川岳が白くかがやく
 夏の小夜友と語った思い出話
 青春は花火のように一瞬だけ輝いて美しいもの
 山の端の茜色から空色の境目なきを行くうろこ雲
 遠く見て季節を感じ風流を見ていることで心が澄む
 我が心火消しを夢に目指せども意気の炎は決して絶やさず
 夢に向け走る我が身を案ずるも許す母の人情味かな
 田んぼの鳥はありゃトキカツルかいやサギだ
 帰り道ふと顔を出す太陽と輝く水は絶品物だ
 扇風機エアコンつけて涼む午後気付くと猫と睡眠時間
 水泳ぐ田んぼの中のかえる達澄んだ水と自然の中に
 熱き夏したたる汗と涙には多くの思いつまっている
 夏の時昼夜問わずきこえるは自然に作られし合唱団
 昨夏の日涙流したあの頃は心に残る青春の証

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 室川 優斗
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 室川 優斗
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 松田 來華
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 松田 來華
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 樋口 瑠伽
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 樋口 瑠伽
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 小野 竜弥
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 小野 竜弥
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 小林 怜央
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 小林 怜央
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 佐々木菜摘
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 五畠 和花
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 北山 裕行
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 北山 裕行
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 松井 倅
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 松井 倅
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 林 史也
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 林 史也
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 林 史也
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 須藤 麟音
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 須藤 麟音
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 須藤 麟音
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 高橋 唯人
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 高橋 唯人
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 星野 伶実

夏の夜心に響く花火の音友と見た花一生の宝
 打ち上がる遠くの花火見て何思う線香花火すぐ落ちる
 ふるさとは赤谷の森に珍しい鳥の王者イヌワシが住む
 みなかみは自然豊かで水うまい温泉の地の我がふるさとだ
 帰ったら宿題しようと思っても部屋に帰るとスマホを見ている
 いつまでも宿題ためて困っても最後は結局徹夜で頑張る
 伝えてく今までの伝統これからも空にたたずむ谷川のように
 暑い中チリンチリンと音ならし暑さも飛ばす良き風鈴たち
 青い空周りの山に白い雲真夏の景色を窓から眺め
 楽しみに始まった夏休み今はもう課題が残り焦り増す
 昔から自然豊かで住みやすいまだまだ築くユネスコエコパーク
 都会では味わえない自然の豊さと澄んだ空氣の心地良さ
 谷川の気高き山に囲まれて四季折々の景色楽しむ
 夏休み利根のせせらぎ聴きながら家族みんなで足湯かな
 見上げれば夜空に光る大きな花夏の夜をきれいに染める
 夕暮れに寂しさ残る帰り道静かな道をまた君と
 風に乗るガラスの金魚が歌い出しせせらぐように過ぎ去った音
 しらかばのぬげがらのやまふみわけてひらけてみえたふきわれのたき
 車窓から眺める外の景色には僕らを照らす夕日ちゃんだよ
 夏が来た暑い日続きバテていく太陽の暑さに負けないように

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 星野 伶実
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 石坂 心奈
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 林 唯菜
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 林 唯菜
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 岩田 悠人
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 岩田 悠人
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 鈴木 一華
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 橋本 直也
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 角田菜々実
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 角田菜々実
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 片山 麻衣
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 片山 麻衣
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 竹内 玲奈
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 竹内 玲奈
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 竹内 玲奈
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 本多 来依
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 本多 来依
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 本多 来依
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 狩野 友花
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 田村 月海
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 渡辺 冬聖
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 山崎 夢人

太陽に照らされる私は涼しさを求め冬の想い出に浸る

川の吹く暑さを忘れるさわやかな思い出運ぶ夏の風

旅をして各所で歌を詠みながら新たな世界へ出発だ

利根川の水面にうつる月あかりふと見下げれば蛍の光

観光地外国人が訪れてにきわう町と元気な地元

みなかみの良さが広がり地元にはにぎわう人々喜ぶ地元

みなかみ町地域の人の支持もありいつもきれいですごしやすい

ゆらゆらとゆれる緑の草花とさらさら流れる澄んだ川の水

みなかみは川が綺麗だ山並みも自然が綺麗美しい

山合いの見渡す自然に心寄せ一足すすむ谷川渓谷

生きものと緑豊かなこの町で守る伝統僕らの力で

山を見よ山に日は照る川を見よ川に日は照るいざその場へ

考えながら酒を飲みはじめたる一合や二合の酒が全てからになる

利根川は日本で二番目地域からたくさん愛されいつもきれいな

暑い夏かき水を食べてすずしいな

みなかみの自然豊かな町並に利根川や山美しい町

あの風景みんなで見えていたあのときを思い出すたびなつかしい

ひとつだけ願うならあと一ヶ月夏休みがほしい

ひとつだけ願うならあと一ヶ月すずしくしてほしい

あの場所でみんなが見てた風景は終わらない日々美しき四季

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 荒木 結香

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 神尾 一愛

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 木内 優花

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 佐々木菜美

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 塩谷 珠々

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 塩谷 珠々

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 田村南々美

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 角田 紫乃

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 中村陽加里

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 葦山 颯南

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 葦山 颯南

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 深津 麗

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 丸山 萌衣

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 諸星 優菜

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 小岸 雅和

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 後閑 真一

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 勝見 敦

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 小林 優也

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 小林 優也

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 今井 麻尋

白球をおいかけ続けやってきた始まった夏終わらない夏
 教室の窓からくる風はとても気持ち良く夏を感じる
 梅雨明けて夏も間近で人間、動物もこれから大変だ
 みなかみは自然が多くとてもみすやすいまちだ
 この夏の課題が終わらず焦る人最終日に急いでやる
 水上の流れる川の暑では川は僕らの遊び場になる
 水上の夏の暑さにやられてはかげを探す旅に出る
 幾度となく変わりゆく人々と木々の中変わらず残る谷川岳
 夏休み課題をやるうと広げても結局やらずにしまってしまう
 空の色夕焼け色が違うなと思いつつ見たら薄い紫
 自然と共に過ごし、何度もその顔を変えていく谷川岳
 うぐいすが鳴き出す谷になだれ込む風を映して青き利根川
 海遊び水をちやぱちやぱ足痛い次は楽しみ冬休み
 空に舞う赤き体の蜻蛉を探してみれば目の前に谷川岳の崖の上に
 夏の海友達いない金がないだから自室でゲーム三昧
 夏の日の夕涼み稲穂に輝くホタルの光
 夏の空夕焼け染まる真つ赤な景色は晩夏に押しせまる気配へと
 肝だめし夏の定番誰か泣くしかし最後は笑って帰る
 水紀こう水もさわやかすきぬける色だれもが愛す川
 赤トンボ谷川岳を飛びまわり秋はまだかと心躍らせ

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 鈴木 郁人
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 笛木 悠斗
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 笛木 悠斗
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 市川 大智
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 菅沼 幸正
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 佐々木伶恩
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 佐々木伶恩
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 高井 佑人
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 田口 澄哉
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 田口 澄哉
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 林 駿弥
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 阿部 俊介
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 田村ジュン
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 阿左見一輝
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 橋田 響
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 星 芽衣
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 高橋 真奈
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 荒川光太郎
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 吉池 莉海
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 土谷 萌恵

梅雨空に傘の花咲く通学路

大空に大きな花が咲き乱れ月夜野のまち明るく染まる

みなかみは深き青い利根川と大自然の緑から成る

今年また若葉となれば思い出す蚩飛び交う夢のごとき夜

夏休みにぎやかに楽しいな

谷川岳と利根川が走る水上の風景さわやかに

水源の清らかな水保つには個人の努力みんなの協力

川の辺べにぼんやり光るいやしありふるさとの色ほたるの光

みなかみの自然あふれる夏休み山に川に最高だな

みなかみの自然豊かな水自然それに囲まれ暮らしていく

ふと空を見上げるたんびに思うこと大きな青と白いわたあめ

夏の夜に明るく光る夏花火明るく咲いて心をいやす

大空に星輝きて流れゆく願い叶えるとみんな喜ぶぞ

夕焼けに顔からポツリと水垂れて赤く染まりし空と大地かな

見上げれば空一杯に花哉風は涼しく浴衣くすぐる

夏の夜友と二人で浴衣着て涼しげに見上げれば空一面に満開の花

みなかみのまわりを見れば山ばかりだけどその山とてもきれい

山と川自然豊かな町のなかホタルやセミが輝いている

山はだよ早くきれいな白になれ水上の夏まだまだ暑い

かき氷急いで食べて頭痛きたおまけにお腹も痛くなった

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 石山 陽菜

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 星 光汰

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 倉澤 秋希

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 高橋 隆心

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 勅使河原寿々恵

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 中村 汐里

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 中村 汐里

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 柳 花梨

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 富沢 祐人

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 中川 愛梨

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 中川 愛梨

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 濱名千恵美

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 濱名千恵美

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 本多 愛弥

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 鈴木夢姫葉

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 高橋 小雪

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 鈴木 愛美

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 鈴木 愛美

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 平形 駿介

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 平形 駿介

炎天下まぶしい中で庭に咲くひまわりの背と小さな女子おなご
 花咲くは君への想いを心に秘めて一途の恋心今伝えたい
 みなかみの自然はいいなきれいだなホタルも飛んで水のおいしい
 まぶしくてカーテン閉めたそのときにひかりのことが好きにおもえた
 夏祭り見上げた空に打ち上がる夜空にキレイな花火たち
 天の川ひこぼしおりひめ再会だ我も再会古き友
 みなかみには素晴らしい物がたくさんあるその一つが利根商だ
 暑い夏みんなで遊んだ川遊び明日も部活がんばるぞ
 海の声そらにまよへり春の日のその声のなかに白鳥の浮く
 手をとりてわれらは立てり春の日のみどりの海の無限の岸に
 暗い夜道川の涼しさが心地よい夏のどこかで
 セミの鳴く夏の良き日にあこがれて我が思いこの良き日
 夢に見る熱い戦い目標に白球追って日々努力
 暑い夏坂東太郎のせせらぎを聞いて夏を過ごすべし
 様々な温泉わき出るみなかみは身も心も温まる町
 夏のように輝く星は天川我的心も天川のように
 夏休みとても花火がキレイで我が心ものようだ
 空見れば夏の夕日に照らされてあたり一面夏の景色に
 貴あなたの姿止めし叶わず去りしもの世の心をば花火ちるらむ
 酒飲めば涙ながるるならはしのそれも獨りの時にかぎれり

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 岡田 陽菜
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 岡田 陽菜
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 大内 優羽
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 荒木 太一
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 岩田 心
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 木暮 紘夢
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 倉沢 悠
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 柴崎 俊介
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 加藤 駿
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 加藤 駿
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 木暮 斗哉
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 市川 航大
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 須田 琉翔
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 須田 琉翔
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 磯田 由楽
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 一倉 大悟
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 一倉 大悟
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 入澤 天太
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 入澤 天太
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 青木 愛斗

山を見よ山に日は照る海を見よ海に日は照るいざ唇を君	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	青木 愛斗
日本晴れきらめく日差しとその青が僕の心てらしてくる	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	関 諒介
アブラゼミが鳴き出す木になだれ込む日を映して光る利根川	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	瀧本 了仁
夏の日にセミのなきごえきこえではわれがおもうもセミのよう	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	竹内 亮二
鈴の音この音を聞くとすぐ季節を感じすぐ落ちつく	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	中村 魁亨
田に畑に見える景色は変わらねど光る稲穂に心踊らせ	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	阿部乃々果
青き利根川山にかこまれてゆつくりと登下校中の子供いつもみまもる	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	池田 りな
橋の上利根川の風吹いている涼しい風が汗を冷やすよ	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	大戸 琴葉
始まった梅雨明け忘れた夏休み梅雨明けしたら暑すぎる夏	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	大戸 琴葉
空焦がす夕日の深み染まりゆく人影二人道に映りて	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	佐藤 星来
風吹くと新緑の木々揺れ動く川の流れの音を楽しむ	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	佐藤 星来
水上で夏は涼み冬は滑り四季を楽しませる群馬の水上	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	杉浦 夏希
四季彩豊かな水上で人に自然に与える水上風景	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	杉浦 夏希
春花見夏は登山に秋紅葉冬はスキーで毎季変わるみなかみの風景	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	高橋菜々美
夏休みしかし毎朝早起きし部活と課題追われる日々です	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	高橋 由芽
街路樹に咲いた花からひらひらと舞い落ちる影うつくしきかな	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	竹吉 花音
水たまり踏んで遊んでいる子どもその周りには避ける大人が	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	竹吉 花音
曇りなき十一月三日の空の日のかなしいかなや静かに照れる	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	戸部 未彩
蝉の音が木々の間を木霊して夏の日光輝きたり	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	中島優梨菜
蝉の声鳴り響く庭青々と囁く木の葉夏の景色	利根沼田学校組合立利根商業高校1年	根津 美来

見上げれば空一杯に花火かな風は涼しく浴衣くすぐる
 川岸で水かけ合う子供と横でほほ笑む夏の思い出
 鉄の道長蛇の列並びに走り見えた先々は近未来
 大空の下で飛び立つ人々と悠長にかける鳥の鳴き声
 峻嶺と谷川岳と利根川を朝に夕べに聞きつつ眺める
 蒸し暑い夜に聞こえる利根川のすずしく感じる川のせせらぎ
 谷川岳翔ける北風みなかみの自分表す深き色なり
 炎天下夏の暑さと反対に涼しそうだな空の水色
 青空の夏日の下に日影できみんな集まる団体行進こうどう
 長い夜まとう暑さに風願いくり返す日々短い夏
 ラフティング流るる利根川下りしは美しき緑眺める間もなく
 透き通る利根川の水足いれて電車を待つ部活帰り
 夏の夜虫の声が子守唄気づけば我は夢の中
 夜の川黄色い光が宙を舞う夏に欠かせぬ景色のひとつ
 利根川の涼風浴びる通学路涼風共に吹き抜ける日々
 夏の夜ラムネを片手に散策し森の光に儂さを覚える
 宵空に儂なく海風吹き抜けし霞がかりて月おぼろげに
 肌を刺す強い日ざしを避けたくて日陰を探し歩く私たち
 牧水の紀行文中最長で利根川訪ねるみなかみの旅
 流るるは荒立つ岩場多き川されど清らか坂東太郎

利根沼田学校組合立利根商業高校1年 星野 英里
 利根沼田学校組合立利根商業高校1年 星野 妃南
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 星野 勝汰
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 富沢 真咲
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 井上 南千
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 阿部 悠華
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 前田 雅明
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 大竹 柊惟
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 阿部 翔太
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 駒井 夏人
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 小池ほのか
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 金井 真菜
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 笛木 昭易
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 原沢 泰河
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 尾竹 祐輔
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 竹田 昴
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 五十嵐蘭夢
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 石田 悠華
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 片山 翠
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 木村 千笑

顔あげて夜空をみれば一面に色あざやかな火花舞い散る	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	高井 愛加
峻嶺と谷川岳と利根川を朝に夕べに眺める日々	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	鷹嘴 未希
空見上げ輝いている太陽とニコニコ笑う君の顔	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	星野明日香
蒼天に映えし白妙 <small>しろたえ</small> わたがしは蝉の声呑み足早に去りゆく	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	本多 楓
橋の上絶景広がる山々に霧舞う空に朝日差し込む	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	湯本 世奈
アウトドア恐怖と共にスリル感やってよかった夏の思い出	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	湯本 世奈
静けさや耳を澄ませば虫の音が辺り一面鳴り響く夜	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	吉澤 美咲
堂々と力強く流れてく長さ自慢の良き利根川	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	山本 湧輝
夏が来た青色目立つこの時期にたくさんのお出掛けしたい	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	小山 桃葉
夏が来た宿題が終わらないもう後がない夏休み	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	田島 俊亮
待ちに待った1カ月の夏休みなのに何故か長く寂しく感じる夏休み	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	茂木 梓紗
この夏も花火のように一度きり今を楽しくまんきつしよう	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	秋山 心
夏の夜に光りかがやく地上の流れ星が心にのこる	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	秋山 心
空見上げ思わず手を上げぬぐい取る流れる星が涙の様	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	木村 紫月
ホタル舞う暗闇の森夜に光る満天の星には負けてない	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	織田澤風咲
夏最後花火大会音共に去っていく夏さみしく感じる	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	織田澤風咲
太陽が照らす向日葵ぐんぐんと天に向かって伸び続ける	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	富澤 虹
夏の空太陽と満開花火どちらも熱く夏を告げ	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	今井 詩織
がんばるが短歌うかばず悩む日々さしだされたのは友の手	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	豊永はづき
朝おきて眠い目こすりあくびして思わず飛びこむふとんの中に	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	井上 綾菜

夏が来て暑くなるけど大丈夫俺の相棒エアコンだ	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	大熊	ニキ
山や川自然がたくさんみなかみ町海はないけど楽しめる	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	中澤	琴美
みなかみの自然はすぐ豊かだなラーメンを食べたいな	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	川口	槇輝
暗闇で小さく光るみなかみのホタル毎日元氣頑張っている	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	関	凌太
私生活寝起きはダルいまた寝るよだけど本当は起きたいよ	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	佐藤	翔哉
冬のじきつくしんぼうがはえてくるニヨキニヨキでとてもまるっこい	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	横沢	駿之助
なつの空トンボいっぱいといとんでるよなんだかとてもたのしそうだね	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	福本	優芽
みなかみ町はほかの町よりもすぐ綺麗な自然があふれて空気が綺麗だ	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	荒井	音生
新元号時代が変わって一休み次の年号明和かな	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	高塚	玄英
この山と川の自然が酒の肴 ^{あて} 良き湯に浸り旅また次く	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	林	秀虎
みなかみの良き湯に浸り山川の自然の恵み酒の肴 ^{あて} かな	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	林	秀虎
夏休み今日も明日も夏休み長く感じる夏休みかな	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	中山	理久
夏が来てみなかみの山熱こもるそれをしのぐはエアコンの冷房	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	樺澤	朋紀
今年の夏梅雨が明けないこの夏はじめじめとした去年の夏とは大違い	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	後藤	柊哉
青年の汗をふいてる姿あり仲間と共に励み合う	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	信澤	琉斗
天巡るたなびく雲と積乱雲夕立ち後の地の香り心落ち着く	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	星野	涉
みなかみの地産地消すべてよしきのこにフルーツ宝の宝庫	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	峰川	悠矢
頂点目指し泥くさく白球にこめるワンチャンス	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	村田	佳翼
楽しみに始まった休みもう終わり宿題が残り焦りが増した	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	綿貫	陽
山の風夏の涼しい日のかげに秋を感じるささやく音を	利根沼田学校組合立利根商業高校2年	木暮	優羽

夏になり自然を感じ汗流し思い出作り最高の夏
 キラキラと光輝く太陽に街が賑わうセミ達の声
 夏の風演奏に乗せ吹き抜ける今年こそ取る西関への道
 夏の空大きく広がる花火かな涼しい風で浴衣がゆれる
 涼しげな音とキラキラ光る水面夏の暑さに涼しさ香る
 夏祭り太鼓と共に鳴り響くみんなの笑顔輝き咲いた
 窓を開け外の面の雨音ポタポタと現の闇のしのびよる夕方
 セミの声暑苦しさが増していくしかしそれが夏を運ぶ
 気がつけば花火の季節空に広がる輝きを目に焼きつけた夏の夜
 友と歩く帰り道は川の音とみなかみの風吹きぬける夏の思い出
 夜ながら幽かに光る蛍一つ蒸し暑い夜で月の灯りない夜に
 「この味がいいね」と君が言ったから秋の美しい魅力に
 閉めてても窓から入るセミの声邪魔はしないで集中の夏
 陽が射して気温の上がる教室で課題に取り組む青春の夏
 水の音いつも流れる滝の音夏を知らせる音メロデー
 夏の音いつも聞こえる虫の声夏を知らせるせみの鳴き声
 夏祭り夜空に上がる花火がねすぐきれいで心に残る
 じめじめと雨の日が多いこの夏に訪れてくれないか天気の子
 みなかみ町自然豊かな風景感じて朝の日山の中
 みなかみの自然ゆたかな緑たちみんなだいすき川としぜん

利根沼田学校組合立利根商業高校2年 小林 綾
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 角田 和泉
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 角田 和泉
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 戸山 希望
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 戸山 希望
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 中島世梨奈
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 牧野 七海
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 町田 えり
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 町田 えり
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 森永 星夢
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 山田 玲那
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 山田 玲那
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 山田 聖
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 山田 聖
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 金子 莉奈
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 高橋 茉奈
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 高橋 茉奈
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 笠原 諒乃
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 長谷川友里
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 山口 晴也

夏休み楽しく過ごす日々があり課題たくさんもう疲れたよ
 夏休み部活帰りの通学路買い食いたねゼブンイレブン
 夏休み汗水流し部活動自分追い込み挑戦する
 見上げれば空に輝く夏の月静かに町を照らしてくれる
 悔いのない演奏出来たコンクール来年狙うは金賞です
 目の前に広がる緑の光が川面に消えていくほ、ほ、蛍来い
 そよそよと田んぼで鳴いている音楽の合唱
 上見れば夜空に光る花火たちきれいすぎて目が離せない
 夏が来て聞こえるせみの音暑さ増しとんぼが飛んで秋が来る
 みなかみの地産地消すべてよしきのこにフルーツ宝の宝庫
 日々努力掴む深紅の優勝旗谷川岳が応援してる
 坂東太郎遠い春苦難乗り越え挑む夏全員野球でやってやろう
 透きとおる利根川の水透きとおりみんな飛び込む水の聖地に
 群馬県みなかみ町は滝が落ちる吹割の滝とてもきれい
 水上の自然豊かな川の水みんな好きだよ谷川の水
 みなかみは自然豊かな町なみでこちよくて住みやすい
 夏休み今年の夏も部活漬けあつという間に休みがおわる
 夏の朝ミンミン鳴くよ虫の声朝を知らせる虫ハーモニー
 夏祭り打ち上げ花火きれいだな終わった時は寂しい気持ち
 夏の家クーラー効いて涼しいなしかしお金はなくなっていく

利根沼田学校組合立利根商業高校2年 林 真之輔
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 野尻 美尋
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 武井 愛花
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 塩原 結衣
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 塩原 結衣
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 後閑 希愛
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 小野ひかり
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 牛口 愛梨
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 牛口 愛梨
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 荒川 天音
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 吉沢 太一
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 吉沢 太一
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 吉沢 太一
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 水上 颯太
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 林 太輝
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 田村 悠
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 田村 悠
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 齊藤 圭寿
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 小林 剣太
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 白倉 乃愛
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 関口 幸輝
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 星野 翼

夏の朝セミがきこえる朝が来てミンミンなるよ目覚し 夕焼けや赤く染まりしみなかみのなまあたたか風いとなつかしき 夕暮れや赤く染まりや帰り道こちよき風吹くとうれしき 緑良きこの地に産まれ生きてればささいな事気にならない 夏の外日が暮れ見える薄暗い空を見あげてつくためいき みなかみの自然と水の輝きを地域に広め豊かな水上 輝きを水上の闇に照らしては笑顔がふえて明るい未来 夜の川ちらちら見える蛍火が水面に揺れて星々のよう 群馬のね吹割の滝かがやきがあっかんてきで感動だよ 谷川の川冷たさに飛び込みたくなる夏の暑い日 谷川の雪解け水をつめたさに みなかみの自然豊かな森の中しずかな虫の笑い声かな 弓を引き澄んだ空気に身を委ね的射る姿凛々しく思う 夏の夜に笛や太鼓の音響くふるさとの祭りなつかしきかな 利根川のせせらぐ川の水の音泳ぐ魚もいとおもしろき 風香る木々に磨かれ清らかな風は私を夏へいざなう 晴れか雨の日どちも憂鬱常日頃こころで転機を得たいとも 雨に濡れ過ぎす日があっても良しとする身の穢れ落ちると思へば 谷川のせせらぎの音を聴きたまへただ涼しげにみなかみの声 青い空涼しげに咲く朝顔と屋内で涼しむ私達だ	利根沼田学校組合立利根商業高校2年 高橋 怜奈 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 阿部 龍玖 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 有吉 光 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 石田 渚 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 石田 渚 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 久米 一輝 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 久米 一輝 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 佐藤 涼翔 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 高橋 颯太 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 田村 駿介 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 田村 駿介 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 地野伸之介 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 中村 敦輝 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 中村 敦輝 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 中村 敦輝 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 星野 尚之 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 星野 尚之 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 星野 尚之 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 峰川 佑人 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 峰川 佑人 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 横坂 勇人 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 小野 梨緒
--	---

蝉の声夏の知らせの風物詩自然の合唱夏のはじまり
 擦れる足狭い歩幅で君を追う手を引く背中と下駄の音
 音たかく夜空に散りゆく紅い灯に焼き付く色は金魚のようで
 陽を浴びて汗染み香る夏におい努力の結晶肌黒きして
 ひまわりのゆれる背中に夏の暮れ落とす種なみたに晩夏の香り
 夏休み長いと思えば短かくて宿題終わらずあせる僕
 川遊びとても涼しく冷めたいな夏だからこそ楽しむ遊び
 夏休み終わらぬ課題過ぎてゆく時間と月日空回り
 あの子から来たと思ったメッセージ来るのはいつも公式通知
 夕焼けの赤に染まった帰り道負けの悔しさ噛み締めながら
 憧れの舞台目指して駆け抜けた三年間の思いを乗せて
 透き通る水踊り舞う石の上太陽の日を浴び七色に
 そよそよと吹いてく風は涼しげに過去の記憶を蘇よみがえらせる
 谷川の雪解け水は流れ来て利根川は沼田大地を豊かな土地へ
 名胡桃は今も見ている沼田の地平和な日々を願いつけて
 綺麗な透き通る水に緑の木々普段は気づかぬみなかみのよさ
 向日葵のみる方向に目をやればあなたの笑顔その花に似て
 朝と晩涼しい風が吹いてきてもう夏が来たと思う時
 周り見て自然がたくさん幸せだ外にでもでて遊ぼうよ
 空高く夏の雲の風韻なまさしくそれは山の如し

利根沼田学校組合立利根商業高校2年 小野 梨緒
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 高橋 香音
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 高橋 香音
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 宇田川 唯
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 村岡 夕叶
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 黒岩 蒼
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 黒岩 蒼
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 佐久田大祐
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 佐久田大祐
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 野上 太一
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 野上 太一
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 野上 太一
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 丸山 愛未
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 山本 浩輝
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 吉野 拓海
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 吉野 拓海
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 吉野 拓海
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 中里 奎太
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 星野 華穂
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 信澤 華菜
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 信澤 華菜
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 戸澤 亜実

夏休み部活終わりの帰り道セミも驚く日本の暑さ
 ドンドンカッ山車から響く笛太鼓夏の象徴祇園囃子
 一面に湧く温泉街忙しなく癒^{たの}しさを求め歩き続ける
 真夏の日水辺に集まる人の子ら陽も子も眩しく元気な子
 夏色に空高く舞う大玉が夜空に綺麗に色づける
 梅雨明けにふと見た空に七色が地と空繋ぐ立派な架け橋
 真夏日だセミがミンミン鳴いているセミにとっての大事な仕事
 屋根を打つ雨の滴がポトポトと切なく思う寂しい夜に
 夏休みスポーツと暑さにねっちゅうしよう
 夏祭り人に流され見る神輿美しきかな
 空青く色鮮やかな森林に鳥のさえずり趣深し
 海の家おいしいお幸夕ご飯オレンジ色の夕日もきれい
 夏休み笑顔があふれ楽しいな恋人たくさん悲しいな
 白い風光り風立つ向こう側新しい冬きみとみつけた
 今もなお、この血に流るる我が先代歴史を引き継ぎ名を轟す
 夏陰で涼しむキミの横顔は夏の日差しさえキミを引き立てる
 男子校男だけでも楽しいが月日が経つにつれ彼女欲しい
 木の枝にとまる小鳥をながめてたいやあれまてよあれ鳥じねえ
 朝響くキジバトの声聞く人の気持ち知らずにチャイム鳴りだす
 さかのぼり出来ない私はまだ未熟今できるのは過去を見るだけ

利根沼田学校組合立利根商業高校2年 岡田 朋海
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 金子 音穂
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 安原 奨悟
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 安原 奨悟
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 本多 舞南
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 本多 舞南
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 渡邊 司
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 渡邊 司
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 山崎 昭耶
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 山崎 昭耶
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 宇根 幸恵
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 生方 歌音
 利根沼田学校組合立利根商業高校2年 生方 歌音
 群馬県立沼田高等学校 1年 相原 佳冴
 群馬県立沼田高等学校 1年 加藤 翔太
 群馬県立沼田高等学校 1年 松井 紫音
 群馬県立沼田高等学校 1年 渡辺 廉
 群馬県立沼田高等学校 1年 高橋 隆輔
 群馬県立沼田高等学校 1年 新宮 光晴
 群馬県立沼田高等学校 1年 新宮 光晴

緑々と葉を踊らせる夏の木々私もいつかあまになりた
 夏祭りみんなで約束したもののすべての時間部活で終わる
 つまらないある日の夜にスマホ見て気づけば僕は眠りについた
 日の昇る朝に起きるのは必然で望んで惑うは貴女の温もり
 灼熱の真夏の夜に飛びちがう無数に光るわずかな命
 はきをさめしてはきぞめしてはまた人の心や個性をも磨く
 夜いつも勉強しよう動くかなあと十分が永遠になる
 朝起きて時計を見れば寝坊だと思えば今日は休校である
 清き水流るるを見て我思うこんな思いも流れてしまえと
 夏嫌い祭りや休みは楽しみも理由は単に虫嫌い
 エアコンの風うけて皆涼しそうだけど自分は凍え死にそう
 毎日の朝早起こと厳しけり日々休めること願うばかり
 尊さのまぶしさ残る初恋に踊り踊られ過ぐる時
 帰り道君と歩いた木々の下家の方向違うのに
 三面で学校はやくおわったが午後にまつのは地獄の暑さ
 夏と冬同じ時間で色変わる地球ほしの定義にひれ伏す僕ら
 「また明日」忘れられない温もりと君の背中を見つめるばかり
 期限切れ昨日あれほど止めたのに早く出てきてバス先出ちやう
 夏の空風にたゆたう君の声知らせも残さずしりぞいた
 桜散り春が過ぎてく初夏の風連想させる蝉の鳴き声

群馬県立沼田高等学校 1年 笹川 拓真
 群馬県立沼田高等学校 1年 大竹 琉杜
 群馬県立沼田高等学校 1年 湯浅信乃輔
 群馬県立沼田高等学校 1年 吉田 将大
 群馬県立沼田高等学校 1年 角田 智規
 群馬県立沼田高等学校 1年 篠原 唯飛
 群馬県立沼田高等学校 1年 今泉 洸太
 群馬県立沼田高等学校 1年 水野 佳貴
 群馬県立沼田高等学校 1年 本多 翔湧
 群馬県立沼田高等学校 1年 榎本 惇紳
 群馬県立沼田高等学校 1年 佐藤 夏生
 群馬県立沼田高等学校 1年 石北 輝依
 群馬県立沼田高等学校 1年 丸山真之介
 群馬県立沼田高等学校 1年 関矢 歩夢
 群馬県立沼田高等学校 1年 相原 佳冴
 群馬県立沼田高等学校 1年 黒岩 翔太
 群馬県立沼田高等学校 1年 見城 永遠
 群馬県立沼田高等学校 1年 佐藤慎之助
 群馬県立沼田高等学校 1年 星野 智祐
 群馬県立沼田高等学校 1年 竹田 優希

長雨の降り止むもとの紫陽花は光輝き蒼天仰ぐ	群馬県立沼田高等学校	1年	関 翔琉
白米はなんであんなに白いんだかよちー大好き俺も大好き	群馬県立沼田高等学校	1年	飯塚 千公
暑い日はすぐそこまで来ているがまだセミ鳴かず空は雨模様	群馬県立沼田高等学校	1年	吉原 大翔
白銀の絶対零度吐息となり空が凍て付き心は凍る	群馬県立沼田高等学校	1年	西本臨太郎
梅雨明けのアスファルトが熱きにてふと思ひ出す十五の夏	群馬県立沼田高等学校	1年	堀 諒丞
夏の夜小川で漂う無数の光近くで見られる生きる星かな	群馬県立沼田高等学校	1年	齋藤 春樹
音楽緑の中にひびいてる旋律奏で虫たち踊る	群馬県立沼田高等学校	1年	萩原 天将
木漏れ日の下で織り成す旋律は静寂の間心癒やし	群馬県立沼田高等学校	1年	関上 立
冷えた路小池に張った薄ら氷を割って感じた去る白秋	群馬県立沼田高等学校	1年	千明淳之介
大空が今日も明日も僕たちを見守りながら大きく包む	群馬県立沼田高等学校	1年	新木 輝
窓の外涼しい朝に太陽の光を背にし照る子持山	群馬県立沼田高等学校	1年	荒川祐次朗
ぼやけてるメガネ取ったら見える世界花火のように美しい夜景	群馬県立沼田高等学校	1年	吉田 尚央
木の陰で声量大きく鳴く蟬に命の尊さ感じたる夜	群馬県立沼田高等学校	1年	星野 伊音
反射する夏の日ざしを身にうけて僕がいくのはアスファルトの道	群馬県立沼田高等学校	1年	生方 快
火木の朝食とりたる黒鳥をはらう時ぞ母強き	群馬県立沼田高等学校	1年	星野 優太
汗だくの沼高生が集う路天狗に見られ歩く滝坂	群馬県立沼田高等学校	1年	真庭啓一郎
田も黄金空も黄色く映るとき星を知らせる鹿の遠吠え	群馬県立沼田高等学校	1年	小林 祈
息凍り見れば広がるパレットの上に一滴緑の絵の具	群馬県立沼田高等学校	1年	小林 祈
道いそぎ着いてみたはいいものを心細きこと朝のタンポポ	群馬県立沼田高等学校	1年	長壁 俊弥
美しい自然の中の生き物はきれいな声で鳴いている	群馬県立沼田高等学校	1年	小野 涉真

雪の舞うスキー場の雪山を風とともに駆け抜ける人
 夢の闇まどろむ耳に響く音さつき寝たのにもう朝なのか
 香ばしい匂いと共にもちもち生地たまには食べたい味噌饅頭
 なつかしく思い出されるあの場面戦い抜いた昨年さいごの夏を
 黄の帽子帰りにそよぐ春の色心も体も温かくなる
 放課後に降る夕立の音を聞き夏を感じて春を忘れる
 まあいいかあと一時間後回し気付いたらもう日が暮れていた
 風吹いて眺め美し華やかに誇り立つ山沼田の名所
 清らかにただ美しい流れから風情感じる利根の川瀬に
 通学路ガードレールのさび色とほこりかぶった黒ジャケット
 帰りしな安らぎの心耳元に流れるは利根の清き水音
 無意識に止まらぬ右手テレビ見てなんと美味しい冬のみかんは
 清らかな風吹く所に風情あり沼田の名所吹割の滝
 飯食べて眠気と対決昼下がりがり終わりのチャイムまだかまだかと
 坂歩く登る朝日に背を預け包む緑に肌撫でし風
 利根川の水面を隠す白い霧我は上から下界を見下す
 猛暑日の夏呼び起こす蝉の声今年は未だいまその声聞かず
 いつの日かこの夢成就させるため今は基礎を固めてゆくかな
 夏近し挨拶飛び交う通学路人情あふれる沼田の人々
 気がつけば当たり前前のありがとう心をつなぐ感謝の気持ち

群馬県立沼田高等学校 1年 高野 義貴
 群馬県立沼田高等学校 1年 平井 謙伸
 群馬県立沼田高等学校 1年 小林 聖菜
 群馬県立沼田高等学校 1年 小野 佑馬
 群馬県立沼田高等学校 1年 佐々木拓巳
 群馬県立沼田高等学校 1年 芝崎俊太郎
 群馬県立沼田高等学校 1年 遠藤康太郎
 群馬県立沼田高等学校 1年 七五三和輝
 群馬県立沼田高等学校 1年 七五三和輝
 群馬県立沼田高等学校 1年 星野 喬亮
 群馬県立沼田高等学校 1年 大久保溪悟
 群馬県立沼田高等学校 1年 倉田 和弥
 群馬県立沼田高等学校 1年 鈴木 望翔
 群馬県立沼田高等学校 1年 渡部 柊叶
 群馬県立沼田高等学校 1年 栗原 大斗
 群馬県立沼田高等学校 1年 後藤 祐翔
 群馬県立沼田高等学校 1年 長谷川耀汰
 群馬県立沼田高等学校 1年 加藤 広樹
 群馬県立沼田高等学校 1年 林 大貴
 群馬県立沼田高等学校 1年 林 大貴

ただ進む吹雪が周りを掻き消して生きた証もどこにも残さず	群馬県立沼田高等学校	1年	増田	朝陽
雨の日の翌日見せる日の光草木についた水輝かす	群馬県立沼田高等学校	1年	松井	優気
この夏に間に合うように作り出す冷やし中華はじめました	群馬県立沼田高等学校	2年	鈴木	颯太
暑すぎる何も手につかないだろう地球の怒りをかかってしまった	群馬県立沼田高等学校	2年	小澤	司
甲子園負けてくやくしく砂集めおしいれ入れて忘れさられる	群馬県立沼田高等学校	2年	都丸	真志
文化祭それ陰キャへの消化剤楽しめず辛い出るオーラ暗い	群馬県立沼田高等学校	2年	千葉	駿
婆川へ桃取り桃切り子が生まれ犬猿雉連れ鬼退治する	群馬県立沼田高等学校	2年	千葉	駿
小テストやろうと思えばできるけどそれができない今日この頃	群馬県立沼田高等学校	2年	高橋	寿成
帰り道歩きスマホで対戦中フリーワイファイ強制接続	群馬県立沼田高等学校	2年	高橋	旭陽
夏休み遊びに遊び時は過ぎ気づけば終わり課題は終わらず	群馬県立沼田高等学校	2年	高橋	旭陽
打ち上がる花火が夜空のキャンパスに隣を見れば花火の笑顔がそこに	群馬県立沼田高等学校	2年	染谷	駿
フルセット来たチャンボール空振ったあとからみんなに素振りと言う	群馬県立沼田高等学校	2年	染谷	駿
朝友と歩く道のり楽しくてそれにほほえむ優美なあじさい	群馬県立沼田高等学校	2年	関	樹英瑠
電車から見える景色の移りゆきいつしか大人に近づく今日 <small>こんにち</small>	群馬県立沼田高等学校	2年	関	樹英瑠
まどろみの中で聞こえる怒鳴り声もう聞きなれた俺の青春	群馬県立沼田高等学校	2年	小林	舞央
マイライフ波乱万丈いつまでも恐怖と戦う俺の青春	群馬県立沼田高等学校	2年	小林	舞央
付き合って帰りに遊んで手をつなぐかなわなかった理想の毎日	群馬県立沼田高等学校	2年	小林	瞬
男子校女がいなしいうるさいしむさくるしいが毎日楽しい	群馬県立沼田高等学校	2年	小林	瞬
僕は今兄の背中を追いかける同じ道を進めたらいいな	群馬県立沼田高等学校	2年	金子	響
潔癖症他の人とは違うけど人生楽しく過ごせればいい	群馬県立沼田高等学校	2年	金子	響

目の前に毎朝見えるどげ頭どうにもならぬ冷めたこの時期	群馬県立沼田高等学校	2年	笠原	聡馬
真後に迫り来るのはサンバイザー相変わらずのダサイ髪型	群馬県立沼田高等学校	2年	小淵	舜
真横にはにわかクイーンマッシュヘア相変わらずのダサイ髪型	群馬県立沼田高等学校	2年	小淵	舜
青春のいつも聞く声叱責の主は母と恩師から	群馬県立沼田高等学校	2年	小野田	晃基
英単の百題テスト間近だよあせる自分と似た友人	群馬県立沼田高等学校	2年	小野田	晃基
今ならば駅に間に合う飛んで行けば飛べるのなら家に帰れよ	群馬県立沼田高等学校	2年	小野	彰大
雨に見る霜月色の濃紫陽花染めているのは己と知らず	群馬県立沼田高等学校	2年	宮崎	太佑
梅雨晴れの雲無き空と虫の声霞む火輪に夏を見る	群馬県立沼田高等学校	2年	宮崎	太佑
君はもう忘れただらうあの日のこと時計の針はもどることはない	群馬県立沼田高等学校	2年	尾崎	匠
うっとおしいほど雨が降る晴れてもそれで死にたくなるだけなんだけど	群馬県立沼田高等学校	2年	尾崎	匠
暑い日にアイスほおぼり頭が痛く頭をたたき痛さ分散	群馬県立沼田高等学校	2年	大畠	陸也
いい風が教室に吹きうとうととねむっていたらたたきおこされた	群馬県立沼田高等学校	2年	大畠	陸也
「暑いね」と話しかければ「暑いね」と答える人のいるあたたかさ	群馬県立沼田高等学校	2年	泉	喜和
さびしくて絵本を膝にひろげれば青という字に月をみつけた	群馬県立沼田高等学校	2年	泉	喜和
風を受け涼しくそよぐ木木たちは夏の暑さも感じさせない	群馬県立沼田高等学校	2年	武藤	史弥
夏の日の日差しを浴びる少年は部活終わりに黒光りける	群馬県立沼田高等学校	2年	武藤	史弥
暑い夏プールに行つて涼みたいいや川もいいやエアコンがいい	群馬県立沼田高等学校	2年	武藤	史弥
祖母の手を握り消えゆく灯に語りかけるよ「お疲れ様」と	群馬県立沼田高等学校	2年	星野	和也
いつまでも僕の隣は空席でいつかは叶う？ 夢物語	群馬県立沼田高等学校	2年	星野	和也
ワールド杯深夜の部屋に響く熱い声援頂上決戦	群馬県立沼田高等学校	2年	星野	和也
	群馬県立沼田高等学校	2年	廣田	創

何もない籠の中に生きる鳥いつしか空を飛んでみたい	群馬県立沼田高等学校	2年	原田	蓮斗
宿題は最初だけははかどるが今となってはただ写すのみ	群馬県立沼田高等学校	2年	中村	拓幹
梅雨の空いつもどんよりしてるけどいつ見れるかな青い夏空	群馬県立沼田高等学校	2年	中村	拓幹
松茸を食べてみたいが金がない舞茸ならば買えるだろうか	群馬県立沼田高等学校	2年	野上	椋太
わたくしは下の名前で呼ばれてもいいでもそのねがいもう手遅れだ	群馬県立沼田高等学校	2年	野上	椋太
夏祭り花火が咲いてあきれいいつにもまして上機嫌だ	群馬県立沼田高等学校	2年	富澤	柊太
そよ吹く日あの日出会った女の子今は何しているのだろうか	群馬県立沼田高等学校	2年	富澤	柊太
五才児の理解不能な行動に驚かされる僕もしたけど	群馬県立沼田高等学校	2年	都丸	真志
ウインブルドン深夜の居間に響きわたる熱い雄叫び頂上決戦	群馬県立沼田高等学校	2年	徳江健太郎	
ホームランとんでけとんでけスタンドに君は10本俺は0本	群馬県立沼田高等学校	2年	角田	真優
懐かしきたくみの里の想ひ出は親と来た時子供と来た時	群馬県立沼田高等学校	2年	林	亜斗夢
響いてたせみの鳴き声おおらかに終業式の後の教室	群馬県立沼田高等学校	2年	林	亜斗夢
冬の日の部活終わりに窓みると白い結露がびっしりだ	群馬県立沼田高等学校	2年	柳	翔太
暑い日にトレーニングを行うと足の臭いは激臭だ	群馬県立沼田高等学校	2年	柳	翔太
不調だと打撃強化に励む日々闇夜に響く虎の遠吠え	群馬県立沼田高等学校	2年	桑原	大河
問十三明日の天気を答えよそんなことは知るよしもない	群馬県立沼田高等学校	2年	綿貫	颯
暑い中死にものぐるいで振る竹刀一瞬たりとも絶対妥協しない	群馬県立沼田高等学校	2年	吉野	礼都
光受け顔から滴 ^{した} つ結晶の努力勲賞目指す優勝	群馬県立沼田高等学校	2年	吉野	礼都
梅雨の時期折りたたみ傘使っては干すのを忘れてすごいにおいだ	群馬県立沼田高等学校	2年	吉田	結里
帰り道バスの中から見る景色深い緑に夏を感じる	群馬県立沼田高等学校	2年	吉田	結里

部活後の激しいおいの彼の手は手袋つけてもおさまらない
 一日が終わり家へ着くとすぐ小屋から飛びだし餌を求める
 風光る走り続ける全力で自分を見つめる青空の下
 夜空見て月光浴びて我思ふ静まる風の声聞きながら
 酒ならぬ紅茶を飲んで夢を見る地球の上にくさ無き世を
 外国を旅して思う我が国のあらためて気づく当たり前のよさ
 万緑の中に煌めく奥利根湖揺れる水面に映るは翡翠かわせみ
 いつまでも大切にしたいこの町を世界で一つの我がふるさと
 しらさぎを見て気がついた良き環境大きな羽を広げ飛び立つ
 最近の空はいつもと違う色空にも気持ちがあるのかな
 恋人と話す友達妬んでは今日も寂しく「Hey, Siri」
 夏の宵二人でしゃがみ比べ合う真つ赤に燃える儚ない想い
 浮かびだす過去の心情恍惚と散りし花火静寂よまた
 田かきしてさかさ富士山あかね雲田植えの前に深入る静か
 日時かけ歩きふれ観た十路いにしえじ今は瞬過しゅんかで近心きんしん見えず
 冬の朝風邪引き眠る幼子のその手を握る母の眼差し
 キャンパスに描いた花と君の顔今亡き君との思い出の日々
 目の前を歩く小さな白い猫私に気づき慌ててかけ出す
 水上の温泉地巡る祖母と我湯気の向こうに笑い声響く
 夏の夜花火の下で手をつなぐあなたの横顔花火より好き

群馬県立沼田高等学校 2年 山口 誠太
 群馬県立沼田高等学校 2年 山口 誠太
 群馬県立沼田高等学校 2年 宮澤 一生
 群馬県立沼田高等学校 2年 宮澤 一生
 群馬県立沼田女子高等学校 1年 生方 令奈
 群馬県立沼田女子高等学校 1年 生方 令奈
 群馬県立沼田女子高等学校 2年 今井 美樹
 群馬県立沼田女子高等学校 2年 坂爪 美友
 群馬県立沼田女子高等学校 2年 本多 里穂
 群馬県立沼田女子高等学校 2年 本多 里穂
 群馬県立沼田女子高等学校 2年 櫻井 愛弓
 群馬県立沼田女子高等学校 2年 石倉梨緒菜
 群馬県立沼田女子高等学校 2年 深津 日向
 群馬県立沼田女子高等学校 2年 井上 和奏
 群馬県立沼田女子高等学校 2年 井上 和奏
 群馬県立沼田女子高等学校 3年 田島くるみ
 群馬県立沼田女子高等学校 3年 田島くるみ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 安達 由那
 群馬県立利根実業高等学校 1年 後藤 千聖
 群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 七海

元号が変わってもなお変わらない犯罪に手を染める者達
 春となり旅行く先で恋みのりいつかまた会うこの場所で
 青空にエールを送ろう甲子園高校生の青春野球
 「おつかれ」と君がさし出すジュース見て時よ止まれと増す恋心
 梅雨やむと空に大きな虹かかき「良い事あるぞ」と写真におさめ
 早朝に河岸段丘ふと覗く霧かかる町実にきれいだ
 利根川にかかる線路でSLがボウボウ汽笛鳴らして走る
 利根川の恵をうけて飛び交うは夜空を照らす月夜野螢
 しとしとと空から落ちるしずくたち早く梅雨明け待ち通しいよどお
 水と山豊かな自然一目見て心と身体癒やされていく
 旅の時自然を求め道草を思いもよらぬ大冒険だ
 春の花ピンクがかって美しいけど辛いぞ花粉症の花
 美しい咲いて散りぬる夏の空まるで恋愛何とも言えぬ
 帰り道坂道のぼりへとへとに思えばこれで一時期やせた
 夏の空星をみながら考える明日は君に会えるといいな
 夏休み好きな人との思い出をたくさん作りたいと思う日々かな
 風鈴が夏の風にゆれて鳴る風とともに暑さも飛んでいけ
 太陽に照らされたるは肌と汗そこにふきたる強風の嵐
 気まぐれに空に流れる雲たちは自然を守る恵みの神だ
 放課後のオレンジ色の赤城山落ちゆく葉もまた美しきかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 桜雪
 群馬県立利根実業高等学校 1年 南雲 慈苑
 群馬県立利根実業高等学校 1年 南雲 慈苑
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大竹 真佳
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大竹 真佳
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高柳 真鈴
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高柳 真鈴
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高柳 真鈴
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 実鈴
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 実鈴
 群馬県立利根実業高等学校 1年 千明 梨奈
 群馬県立利根実業高等学校 1年 千明 梨奈
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大澤 叶華
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大澤 叶華
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大澤 叶華
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大和 紫織
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大和 紫織
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大和 紫織
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 愛梨
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 愛梨
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 愛梨
 群馬県立利根実業高等学校 1年 武藤 千穂
 群馬県立利根実業高等学校 1年 武藤 千穂
 群馬県立利根実業高等学校 1年 武藤 千穂
 群馬県立利根実業高等学校 1年 石井 望愛
 群馬県立利根実業高等学校 1年 石井 望愛
 群馬県立利根実業高等学校 1年 石井 望愛
 群馬県立利根実業高等学校 1年 本多 夢来

茶と畳香りにつつまれ茶をたてる菓子をほうばる幸せの時
 みなかみの温泉入り景色見てスキーと登山森林浴
 みなかみの美しき水で米作り豊かな自然で米育つなり
 夏祭りやたいやみこしさわぐ人夜は特別雰囲気変わる
 ふるさとはキレイな星がたくさんだ夜空に輝やけ水上の星
 鳴り響くボールの音と仲間の声今日も毎日練習の日々
 じめじめと湿気がこもる部屋の中聴こえてくるは雨の音色
 海にはねなまこにたこにアオリイカ貝や魚がたくさんいたよ
 お祭りはおこのみ焼きにわたあめに金魚すくい日本の文化
 赤城山季節さんによって色変わるいつどこ見ても美しきかな
 奥利根のとても豊かな深緑に自分の心も安らぎにけり
 大好きと声をかけてもそっぽ向く猫は気ままに今日も寝ている
 夏の夜の空に花咲く「愛おしい」届くことない儂き言葉
 ほろ苦くほどよい甘さ切なくてオレンジピール恋の味かな
 暗闇に蛍飛び交う赤谷川水面にうつるみなかみのあかり
 前後ろどこを見ても山だらけ茂る緑の我がふるさと
 フラミンゴ桃のからだを寄せ合って湖歩く美しきかな
 さわやかなオレンジの香りに誘われて母と踏みゆくオランダの街
 赤城山つつじの季節やってきたたくさん咲いた草原地帯
 赤城山風ふく夏よ最高だサイクリングの楽しき時よ

群馬県立利根実業高等学校 1年 本多 夢来
 群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 詩琉
 群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 詩琉
 群馬県立利根実業高等学校 1年 田中心乃花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 田中心乃花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 田中心乃花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 佐々木ひより
 群馬県立利根実業高等学校 1年 佐々木ひより
 群馬県立利根実業高等学校 1年 岡谷 李乃
 群馬県立利根実業高等学校 1年 岡谷 李乃
 群馬県立利根実業高等学校 1年 岡谷 李乃
 群馬県立利根実業高等学校 1年 柴山 みゆ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 柴山 みゆ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 柴山 みゆ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 安達 由那
 群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 明歩
 群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 明歩
 群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 明歩
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山岸 咲月
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山岸 咲月
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山岸 咲月
 群馬県立利根実業高等学校 1年 入澤 美月
 群馬県立利根実業高等学校 1年 入澤 美月
 群馬県立利根実業高等学校 1年 入澤 美月
 群馬県立利根実業高等学校 1年 竹吉経一郎
 群馬県立利根実業高等学校 1年 竹吉経一郎
 群馬県立利根実業高等学校 1年 竹吉経一郎

山々に積もる雪はね美しく人々の心いやし続ける
 青い空緑の自然白い山お互い笑う様々な色
 みなかみの明かり少ない夜の道小さく飛びかう蛍の光
 みなかみの自然豊かな山々にキラキラ輝く純白の雪
 みなかみを二度も訪る男あり彼は愛する群馬とお酒
 冬になり白く輝く雪が降るスキーとギヤグはきれいに滑る
 夏休み自転車こいで下る道暑さも忘れる青空の色
 青空に飛行機雲が線を引く私のための道案内か
 暗闇に一つ二つと輝いて手をのばしても届かぬ光
 夏の夜に咲いて消えゆく大花火そのはかなさがあなたのようだ
 雨上がり紫陽花輝く帰り道雲の切れ間には覗く太陽
 あと少し入道雲にさわれるとはしゃいで必死に伸ばした手と手
 和やかだお菓子やお茶に足しびれ週に一度の楽しみな場所
 梅雨の時期いつも空が薄暗い湿気も多く汗がじんわり
 水上の白くかがやく山望み恋思いだす見つめるたびに
 みなかみの空気と水はどこよりもすぐきれいで澄んでいる
 たくさんの自然の中に囲まれたみなかみの空美しきかな
 守られた森をすみかに生きていく貴重な動物赤谷の山
 みなかみの豊かな緑に囲まれておいしい水をごつくと飲む
 降りしきる雨は毎日続けども勉強する気は長く続かず

群馬県立利根実業高等学校 1年 佐藤 裕香
 群馬県立利根実業高等学校 1年 佐藤 裕香
 群馬県立利根実業高等学校 1年 石坂 春果
 群馬県立利根実業高等学校 1年 石坂 春果
 群馬県立利根実業高等学校 1年 関上 和真
 群馬県立利根実業高等学校 1年 関上 和真
 群馬県立利根実業高等学校 1年 竹内 乃愛
 群馬県立利根実業高等学校 1年 竹内 乃愛
 群馬県立利根実業高等学校 1年 竹内 乃愛
 群馬県立利根実業高等学校 1年 竹内 乃愛
 群馬県立利根実業高等学校 1年 福島 愛穂
 群馬県立利根実業高等学校 1年 福島 愛穂
 群馬県立利根実業高等学校 1年 鶴淵 ゆかり
 群馬県立利根実業高等学校 1年 鶴淵 ゆかり
 群馬県立利根実業高等学校 1年 佐藤 涼風
 群馬県立利根実業高等学校 1年 佐藤 涼風
 群馬県立利根実業高等学校 1年 後藤 千聖
 群馬県立利根実業高等学校 1年 深代 麗蘭
 群馬県立利根実業高等学校 1年 深代 麗蘭
 群馬県立利根実業高等学校 1年 林 咲衣
 群馬県立利根実業高等学校 1年 林 咲衣
 群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 暖

良い夢を少し長めに見ていたが起きたら忘れ一日悩む
 梅雨が来て見上げた空はくもり雲冷たい風が体をとおる
 夏の夜散歩していて空見上げきれいな満月心をいやす
 上見ても横を向いてもキレイだな夜道を照らす小さな光
 夏の日にひまわりを見て思い出すあなたの笑顔私を照らす
 信号機青色の奥に君がいる背中押されて進む私
 夏の音フウリン花火セミの声この音を聞くと夏を感じる
 授業中窓の外を眺めたらあじさいの花雨にぬれる
 帰り道イヤホンの曲聴きながらいろんな想いが込みあげて
 生きる理由^{わけ}尊い君に会いたいと願いつけて会う日まちどおし
 せみが鳴く夏を感じる梅雨明けの青い空が時を伝える
 テスト前課題に追われる日が続く睡眠不足そろそろ限界
 自然から学ぶこと多し川の音涼しさひきたつ今日も今日とて
 ふと消える花火の音と恋の音新たな光涙で見えぬ
 せみの音とふうりんの音がきこえたよみんなが大好き夏の始まり
 短冊に書いた私に伝えたい夢は必ず叶うことを
 夏まつり大声とびかう街なかに笛の音もまた美しい
 想い人離れていくなと思う私そう考える花火大会
 春過ぎて初夏の風が吹くころに植物たちが元気になる
 夏の夜あの人と見る星空はいつにもましてきれいに見える

群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 暖
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋菜々子
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋菜々子
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 里穂
 群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 七海
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 美咲
 群馬県立利根実業高等学校 1年 菅原 里菜
 群馬県立利根実業高等学校 1年 柳澤 京花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 柳澤 京花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 片野 幸名
 群馬県立利根実業高等学校 1年 片野 幸名
 群馬県立利根実業高等学校 1年 後藤 美咲
 群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 心美
 群馬県立利根実業高等学校 1年 齋藤美紗希
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 美咲
 群馬県立利根実業高等学校 1年 小田島亜弥
 群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 花穂
 群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 花穂
 群馬県立利根実業高等学校 1年 林 ほか
 群馬県立利根実業高等学校 1年 林 ほか

アジサイの雨にぬれた葉の上にかたつむりが一匹休んでる
 朝むかえ外を覗けば小鳥なく春のおとずれ感じる朝
 空見上げ若葉まぶしき季節かな時は流れ今を見つめる
 日々過ぎて草花育ち成長しいずれか君も大きくなりけり
 水面に無数の色が重なり合うその上咲き誇る無数の花
 あの人に会える願いを胸に秘め青空の下神もとに願う
 夏の夜ホタル飛び交うみなかみは豊かな自然あふれているよ
 諦めて仕舞ったはずの恋心一目見た瞬間とき溢れてやまない
 雨音にハモって聞こえるカエルの音ゲロゲロ鳴くよカエルの合唱
 見上げれば空いっぱい光る星蛍飛び交う夢のごとき夜
 青々と澄んだ空には昼の月やがて暮れると霞みはじめ
 夏の夜すずしげに鳴くセミの声ゆっくり近付く始まりの秋
 音鳴れば私の心も揺れているあたたかな風夏連れてくる
 見上げれば空一杯に光る花色鮮やかに打ち上がるかな
 さよならと最後のあいさつしたけれど離れてしまおうと思えずに
 暑い夏燃える私と恋模様花火とともに始まる恋
 夏の夜光つては消えるを繰り返す蛍の一瞬ひとときの夏
 川の音石にはじける水しぶき赤谷の森のかがやく姿
 雨の日の家の軒下手を伸ばし雨止まぬかただ立ちつくすのみ
 夏休みスイカトウモロコシうまいもの食べたいな食べたいな

群馬県立利根実業高等学校 1年 藤井 夢登
 群馬県立利根実業高等学校 1年 藤井 千鶴
 群馬県立利根実業高等学校 1年 藤井 千鶴
 群馬県立利根実業高等学校 1年 齋藤 夏颯
 群馬県立利根実業高等学校 1年 富岡 結衣
 群馬県立利根実業高等学校 1年 谷川 彩葉
 群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 希花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 愛真
 群馬県立利根実業高等学校 1年 千明 柚杏
 群馬県立利根実業高等学校 1年 笹原 月
 群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 凜花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 凜花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 凜花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 岡田 陽奈
 群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 美月
 群馬県立利根実業高等学校 1年 立木 愛梨
 群馬県立利根実業高等学校 1年 牧野 凜
 群馬県立利根実業高等学校 1年 荻野 茉雪
 群馬県立利根実業高等学校 1年 笠原 瑠楓
 群馬県立利根実業高等学校 1年 中西 胡桃
 群馬県立利根実業高等学校 1年 林 佳宏

カブトムシクワガタムシとりに森へいったあの頃もどりたい
 谷川の雪白く輝く厚い膜まっ白な雪次の冬にもかかる
 日が落ちて赤城の山が明るくて風流だなど思う夏の日
 夕方に虫の音がする夏の日も後もう少しのつゆのきせつ
 晴天の大空羽ばたくこの身体からだ幼き日の遠い想い出
 夏の日に音が聞こえる蝉の声よくよく聞けば明るき音色
 夏の夜に風鈴鳴らし吹く風は猛暑の中を涼しき今へ
 春の中流るる河に花びらや散りゆく桜美しきかな
 みなかみのおんせん入ってポッカポッカやはり最高水上温泉
 谷川を汗かきのぼる登山道そこにある景色は夏を忘れる
 緑炎りょくえんに染まりし山際光が指し人の心と体をいやす
 こおり食べ水も飲んだりしたけれどどうにもならん暑い夏の日
 夏休み暑い光をあびながらグランド走る部活動の日
 夏の夜チリりと響く虫の音ねは昆虫界のパーカッション
 青空へ続く山々美しくしき雲一つなき夏の始まり
 青々と海が広がり夏夜空花が咲いては子供喜ぶ
 熱さにも負けぬ元気の子供達けがも恐れず川辺で遊ぶ
 なつかしき友に会いけり夏祭りかすかによぎる幼き想い出
 うつくしき大地に広がる尾瀬の山静かな空に飛びかう小鳥
 春が来て光輝く雪どけに心引かれる私の思い

群馬県立利根実業高等学校 1年 林 佳宏
 群馬県立利根実業高等学校 1年 日向 玄也
 群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 美希
 群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 海玲
 群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 瑠花
 群馬県立利根実業高等学校 1年 林 峻
 群馬県立利根実業高等学校 1年 伊藤 昭一
 群馬県立利根実業高等学校 1年 伊藤 昭一
 群馬県立利根実業高等学校 1年 伊藤 昭一
 群馬県立利根実業高等学校 1年 小林陸虎翔
 群馬県立利根実業高等学校 1年 眞庭三希也
 群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 創太
 群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 好誠
 群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 好誠
 群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 好誠
 群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 好誠
 群馬県立利根実業高等学校 1年 塩浦 匠汰
 群馬県立利根実業高等学校 1年 宇津野海翔
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 拓実
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 拓実
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 拓実
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 拓実
 群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 莉来
 群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 莉来
 群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 莉来
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山後 柊也

夕暮れの紅きに染まる積乱雲心の何処かで寂しさ覚える
 水上の大地に溶ける雪解けのきれいに光大雪の跡
 冬になり雪が積もったスキー場人々集まり楽しむスキー
 夏の空青く輝く海のような時の流れもあつという間に
 水の星命の恵み大切に命を繋ぐ青き地球よ
 雨の日の鳥にしたたる雨水に太陽がさし輝きひかる
 夕暮れの自然に響くセミの声夏の到来自覚してくる
 風鈴の音で心を涼しませ扇風機の前風で涼しむ
 山登り山道登りクタクタに登頂成功景色で回復
 冬過ぎて利根に流るる雪の水土地を潤おし民を救う
 静かな夜思いを乗せて空高く輝く光君に届くかな
 裏庭で沈みゆく陽を見送れば瞼に浮かぶひとすじの紅
 夏に聞く田に住む蛙の唄声を秋になる度愛しく思う
 夏の日に蛍飛び交う綺麗に光る黄色の光は草原に舞う
 みなかみの夜空を見上げ星探し負けじと光る蛍火を追う
 夏祭りふたりの声をかきけすは夜空に咲いた打上花火
 八月の夏の夜に見たあのホタル光る灯火儂きかな
 みなかみの自然あふれる町並にわびさび感じる温泉旅館
 みなかみの自然あふれる温泉は疲れた体を癒やしてくれる
 夏の夜に光り輝く夜の空自然の恵みに心動かす

群馬県立利根実業高等学校	1年	仲澤	綾
群馬県立利根実業高等学校	1年	木村	優斗
群馬県立利根実業高等学校	1年	木村	優斗
群馬県立利根実業高等学校	1年	関上	颯太
群馬県立利根実業高等学校	1年	関上	颯太
群馬県立利根実業高等学校	1年	小菅	弥来
群馬県立利根実業高等学校	1年	小菅	弥来
群馬県立利根実業高等学校	1年	関口	蒼生
群馬県立利根実業高等学校	1年	関口	蒼生
群馬県立利根実業高等学校	1年	青木	一明
群馬県立利根実業高等学校	1年	小林	佳広
群馬県立利根実業高等学校	1年	山崎	留生
群馬県立利根実業高等学校	1年	山崎	留生
群馬県立利根実業高等学校	1年	小菅	晏佳
群馬県立利根実業高等学校	1年	小池	可帆
群馬県立利根実業高等学校	1年	小池	可帆
群馬県立利根実業高等学校	1年	田村	光
群馬県立利根実業高等学校	1年	田村	光
群馬県立利根実業高等学校	1年	田浦	智也
群馬県立利根実業高等学校	1年	田浦	智也

故郷の薄根見守る三峰山母なる山に今向かんとす	群馬県立利根実業高等学校	1年	関根 憂飛
登下校自転車下る坂道に絶え間なく鳴くひぐらしの声	群馬県立利根実業高等学校	1年	関根 憂飛
美しく自然豊かなみなかみは変わることなく光輝く	群馬県立利根実業高等学校	1年	石坂 成瀬
さわやかな風吹く町で過ごす日々川岸に行き涼しみたいな	群馬県立利根実業高等学校	1年	石坂 成瀬
みなかみの温泉本当にいい湯だなみんなお肌がとてもすべすべ	群馬県立利根実業高等学校	1年	石田 仰輝
たにがわ岳空気がきれいでけしきよし生き物たくさん自然もゆたか	群馬県立利根実業高等学校	1年	石田 仰輝
この夏は気温上がらず梅雨続き青きあの空いつ見られるのか	群馬県立利根実業高等学校	1年	金子 愛
水田に伸びる白首輝 <small>しゅくび</small> きて魅了されるは私の心	群馬県立利根実業高等学校	1年	金子 愛
セミの声夏の訪れ感じれば夜空に輝く花火の閃光	群馬県立利根実業高等学校	1年	戸田 貫太
みなかみの風情あふれる町並に自然が恵んだ谷川の絶景	群馬県立利根実業高等学校	1年	戸田 貫太
美しい山の景色に囲まれて自然に寄り添う私の心	群馬県立利根実業高等学校	1年	金古 隼弥
雪が舞い人の心を震わせて白く輝くスキーの季節	群馬県立利根実業高等学校	1年	金古 隼弥
皆励む汗したたるは部活動体きたえて楽しむ生徒	群馬県立利根実業高等学校	1年	綿貫 雅真
心地良い心に染みる雨の音雨がポタポタリズム奏でる	群馬県立利根実業高等学校	1年	綿貫 雅真
みなかみの温泉はとてもきもちいい老人もみな肌がすべすべ	群馬県立利根実業高等学校	1年	石田 瑛积
みなかみの冬至に降る雪きれいだなりビングにいけばポカポカの部屋	群馬県立利根実業高等学校	1年	石田 瑛积
ゆるやかに流れる川は輝いて水面映える晴れた夏空	群馬県立利根実業高等学校	1年	小倉 楓喬
夏の日の降る雨粒にぬれる土水たまり映る黒色の空	群馬県立利根実業高等学校	1年	小倉 楓喬
どこからかはばたいて来る鳥達は世界の景色伝えはばたく	群馬県立利根実業高等学校	1年	戸丸夢有人
かっこの鳴き声響く山々は気持ちによって移り変わる	群馬県立利根実業高等学校	1年	戸丸夢有人

利根川の源流にあるみなかみは水空気ともすみきっている	群馬県立利根実業高等学校	1年	石坂 英大
初夏のころ白くかがやく谷川はどこから見ても高くそびゆる	群馬県立利根実業高等学校	1年	石坂 英大
利根川の川の流れを聞いてると心の闇が消えてなくなる	群馬県立利根実業高等学校	1年	阿部 佑斗
長き日々いつもと変らぬ私生活変らぬ日々はいつもゆるやか	群馬県立利根実業高等学校	1年	伊藤 神威
眠気来る我慢できないこの眠さ寝るとたいへん評価が下がる	群馬県立利根実業高等学校	1年	井上 零斗
夏休み沼田祭りが楽しみだ速く行きたい野球したい	群馬県立利根実業高等学校	1年	江連 雄大
夏の日のせみの鳴き声聞こえては夏の厳しき暑さ感じる	群馬県立利根実業高等学校	1年	小田島優太
パドミン 羽球道ほほより流るる努力の汗咲かせてみせます勝利の天花	群馬県立利根実業高等学校	1年	加藤 拓磨
あと少し君とながめるいい景気早く来いよと思いがつのる	群馬県立利根実業高等学校	1年	金子 柚葵
五月でも雪が残る山肌が光輝く谷川岳	群馬県立利根実業高等学校	1年	上村 流偉
偶然と運命の川が結ばれて今と言う名の海になる	群馬県立利根実業高等学校	1年	小嶋 啓嗣
夢の国夢の国にて行ってみる誰かがさげぶ今は授業中	群馬県立利根実業高等学校	1年	小林 亮斗
雨がが風が吹きぬく梅雨の夜輝く金色雲に包まれ	群馬県立利根実業高等学校	1年	小林 亮斗
夏が来て色々なことあるけれどやはり一番海水浴かな	群馬県立利根実業高等学校	1年	下田 結太
夏休みいくらまってもまだこないだけとおわりはあつというまに	群馬県立利根実業高等学校	1年	田辺 大翔
勉強を教えてもできない難しいと言われても私もできないよ	群馬県立利根実業高等学校	1年	千明 愛翔
一筋の彼方に見える山々の自分を照らす運命のよう	群馬県立利根実業高等学校	1年	千木良昂亮
授業うけお昼も食べて午後になりついに始まる睡魔との戦い	群馬県立利根実業高等学校	1年	千喜良孝太
降る雨にぬれるアジサイ梅雨の時季したたる水が美しい	群馬県立利根実業高等学校	1年	千明 航
夏の曲かなでる季節やってきた風鈴がなったチリンチリン	群馬県立利根実業高等学校	1年	津久井陸翔

恋人がいくら待っても来ないけど来た時には喜びばかり

あと少し怖い成績怖い親まちにまった忙しい夏

月光つきびかり夜空を照らす輝きの終わりを探し今日も旅ゆく

人生は何がおこるか分からない良いも悪いも思いのままに

まちどおし海山祭り太陽もキラキラ照す陽気な光

君と歩く帰り道時間が止まれと思うより空はもうすでに赤く染まる

水月すいげつか冷夏の晩はつめたいか我は恋しぞ向夏こうかの候

夕暮れに赤城見つめし夏の果はてどこか悲しき蝸ひぐらしの聲こゑ

牧水はこの大会に届く歌天から眺め喜ぶだろう

肉眼で見ることができた好きな人有名になるほど遠くなる

梅雨の雨暗い気持ちに降り注ぐ真上を見れば希望の光

積乱雲赤城山から雨が降り僕の気持ちはうきうきははずむ

春になり別れから出会い一歩ずつ成長していく心かな

梅雨あけてとうとうきたかこのあつさ風鈴の音しずまるころ

洗濯思うこと雲にかくされし蒼天、太陽をいとおしく思う人ありけり

夏休み暑すぎて嫌になる宿題が多く大変だ

夏の夜涼しい風とかき氷一緒に遊んだ友との記憶

木の幹で元気に鳴いてるアブラゼミ風鈴ゆれるある町の日々

黒板の白き文字より空の雲眺めて思う長きことと

会いたいと思う回数が会えないと病いこのむねが君への思い

群馬県立利根実業高等学校 1年 戸部 壮琉

群馬県立利根実業高等学校 1年 戸丸 臯生

群馬県立利根実業高等学校 1年 平井 真人

群馬県立利根実業高等学校 1年 笛木 捺生

群馬県立利根実業高等学校 1年 古橋 悠斗

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 明莉

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 颯介

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 颯介

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 創大

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 愛萌

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 諒

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 綾馬

群馬県立利根実業高等学校 1年 細川 茜

群馬県立利根実業高等学校 1年 増田 旭

群馬県立利根実業高等学校 1年 増田 陸

群馬県立利根実業高等学校 1年 諸田 光祐

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 将人

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 真那斗

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉岡 篤伸

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 晃平

日が暮れて大空赤く染まる頃冷たい風にあおがれ歩く
 夏の夜に二人の恋が咲きほこる空にはひとつ花開く
 夏の日の夜に光りし星空に願いを思い届け天川
 凜として深紅の影のまなざしが足りないただの木々のそばで
 かまくらをみんなで作ろうわいわいと足跡残る雪の上
 夏祭り周りのみんなが楽しむ顔太鼓の音色が響く夜
 夏の夜光る蛍と水の音山に響くは子どもの声
 交差点信号全て青色に会いに行きなと押された背中
 紅の空に消えゆく夕焼けのカメラでおさめ旅の思い出
 太陽がまぶしすぎて目がいたいだから私は地ごくにおちる
 白球の一球にかけし攻防の青春かけたる炎天下の戦い
 田園に独りたたずみしは人型の田の番人となるはかかしか
 雪まといわたしの心奪い去り微笑む瞳儂き想い
 夕闇みの空に踊る灯火の群れ君と共に来年も
 夕方の涼しい空気と赤い空母と二人で歩くあの道
 陽の光私と共に見上げてる日向葵の顔目を離せずに
 夏の夜の涼しき風に当てられて清水の如く澄む心かな
 学び舎の振にぎわす声を聴ながら果てなき旅よ己を探す
 夏の夜、すずむし鳴きつづけ、暑い夜を涼しくする
 ミンミンとセミが夏のあつさを盛り上げる

群馬県立利根実業高等学校 1年 芳野 成海
 群馬県立利根実業高等学校 2年 星 亜矢寧
 群馬県立利根実業高等学校 2年 林 雅斗
 群馬県立利根実業高等学校 2年 暮目 真親
 群馬県立利根実業高等学校 2年 鶴淵 秀斗
 群馬県立利根実業高等学校 2年 大場 彩乃
 群馬県立利根実業高等学校 2年 青木 美優
 群馬県立利根実業高等学校 2年 佐藤 琉聖
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田村 香織
 群馬県立利根実業高等学校 2年 角田 紗弥
 群馬県立利根実業高等学校 2年 押江 宏透
 群馬県立利根実業高等学校 2年 押江 宏透
 群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 杏実
 群馬県立利根実業高等学校 2年 富岡 琴羽
 群馬県立利根実業高等学校 2年 本多 莉彩
 群馬県立利根実業高等学校 2年 金子 凜
 群馬県立利根実業高等学校 2年 竹之内愛喜
 群馬県立利根実業高等学校 2年 藤田 晴菜
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田中 伯斗
 群馬県立利根実業高等学校 2年 戸丸ひなの

夏の夜に大きく咲いた火の明かり想いをのせて消えていく
 スイカ食べどこまで飛ぶか種飛ばしあつさに負けぬ子の笑顔
 露の空心もくもるああやだな暑くなるのも嫌気が増すな
 新緑と木々が茂るこの中庭と雲一つない大空へ
 思い出に酔う暇もなく酒に溺れ葡萄酒の香り君の赤いほほ
 見上げれば空一杯の星空とはかなげに散る花火かな
 夏祭りじんわり暑い夏の風おはやしの音響く夜
 朝顔が梅雨の雨に照らされてきれいかな木々の間に
 梅雨の時期久々の晴れ空を染め入道雲が心くすぐる
 意味もなく夏の夜風にあたる日は昔の気持ち思い出す時
 暑さますます夏空の下聞こえる音にぎわう子ども鈴虫の音
 夏の朝チリンチリンと聞こえてくるああこの音は風鈴かな
 暑さ増しミンミンミンと鳴くセミは暑さが続いたよになるね
 ご飯食べジュースを飲んですぐ眠る毎日変わる自分の体
 川岸にほのかな灯り誘われて辺り一面蛍の光
 空の青川の水面照らされて優雅に泳ぐ魚美し
 夏の風ふうりんがなる夕方はせみのなき声ひびきわたる
 利根川の川の源流みなかみの大水上山おみなかみやまの水を首都圏に
 みなかみのゆたかな自然を守り未来へ伝えるユネスコの維持の気持ち
 せせらぎの音に隠したこの気持ち月に照らされ君と歩いた

群馬県立利根実業高等学校 2年 今井 凜
 群馬県立利根実業高等学校 2年 今井 凜
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小泉 結乃
 群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 瀬菜
 群馬県立利根実業高等学校 2年 栞原 音香
 群馬県立利根実業高等学校 2年 黒岩 令
 群馬県立利根実業高等学校 2年 新井 菜月
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田川 愛果
 群馬県立利根実業高等学校 2年 木樽 美奈
 群馬県立利根実業高等学校 2年 大竹葉津己
 群馬県立利根実業高等学校 2年 藤井 裕子
 群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 里歩
 群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎穂乃香
 群馬県立利根実業高等学校 2年 桑原 友津
 群馬県立利根実業高等学校 2年 菅沼 美里
 群馬県立利根実業高等学校 2年 佐々木 聖
 群馬県立利根実業高等学校 2年 狩野凜々香
 群馬県立利根実業高等学校 2年 長谷川昂太
 群馬県立利根実業高等学校 2年 長谷川昂太
 群馬県立利根実業高等学校 2年 笠原 希

思い出すいつかの日々の練習を見ていたはずの入道雲
 空見上げ大輪の花が咲きほこり隣の君も映しだす
 君を背に鮮やかに咲く紫陽花や光り輝く雫滴る
 目を閉じて耳をすませばなりひびくスズムシの声葉のささやき
 君と見た空に広がる大きな花かすかに香る雨の匂い
 全て捨て旅路を急ぐ我が目には咲き誇る花道標べなり
 夜も更けて宿の軒にて聞く音色草の陰から心を掴む
 泣き声で朝を起こされまだねむいゲロゲロと大合唱
 満月に彼の顔を浮かばせて会いたい思いを静める夜風
 月光に照らされ歩く影二つ夜が明けるまで二人の世界
 ふるさとの変わらない道散歩して変わらない日がまた過ぎていく
 風の唄野の花届き共に咲き生きた証をただ残しけり
 星空に願いを込めたあの夜はただ悲しけり叶わぬ恋よ
 上見れば目に映りゆく火花さえ儂く散った夢かのように
 雨が降り土からしみ出たひとしづく利根川となる出発点なり
 夏祭り色に魅とれてはぐれては離さぬように君の手をとる
 青き海きらめく水面白き波見上げる星が輝いている
 心から想える人はあなただけ想い想われアオハル日記
 青空を流れる雲が行く先はとて素敵な世界だろうか
 そよ風に吹かれて散ったあの夜に君と歩いた夜桜並木

群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 涼大
 群馬県立利根実業高等学校 2年 井口 彩萌
 群馬県立利根実業高等学校 2年 武井 潔羽
 群馬県立利根実業高等学校 2年 矢野 美咲
 群馬県立利根実業高等学校 2年 松井すみれ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 千明 芽生
 群馬県立利根実業高等学校 2年 千明 芽生
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小野 瑞歩
 群馬県立利根実業高等学校 2年 坂口 理英
 群馬県立利根実業高等学校 2年 坂口 理英
 群馬県立利根実業高等学校 2年 宮野入あや
 群馬県立利根実業高等学校 2年 宮野入あや
 群馬県立利根実業高等学校 2年 宮野入あや
 群馬県立利根実業高等学校 2年 和南城しずく
 群馬県立利根実業高等学校 2年 和南城しずく
 群馬県立利根実業高等学校 2年 和南城しずく
 群馬県立利根実業高等学校 2年 雲越 志歩
 群馬県立利根実業高等学校 2年 雲越 志歩
 群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 聖和
 群馬県立利根実業高等学校 2年 片野 涼人
 群馬県立利根実業高等学校 2年 堤 梨乃
 群馬県立利根実業高等学校 2年 本多 稀羽
 群馬県立利根実業高等学校 2年 栞原 桃香

青い海こちらに来たるは遊覧船あちらへ逃げるは白い鳥二羽
 窓の外黄昏ていると思ひ出す過去の出来事後悔の日々
 僕は蟬やっとなれたよミンミンミンミンやっとな鳴けるよミンミンミン
 本番だ賑やかさ増す沼田祇園みんなの思い夜風にのせて
 戻らない彼らと過ごしたあの日々よポカリと空いた心の隙間
 哀れかな勝手に目で追う思い人蟬の声すら耳に入らぬ
 風鈴の音より先に聞こえだすセミの鳴き声ミンミンミンミン
 打ちつける雨粒の音軽やかに梅雨の季節趣ありけり
 夏の夜光輝く大三角肩寄せ眺む父と母なり
 努力してつかんだはずの幸せが過去の自分につぶされてゆく
 文月の終わり近づくと曇天にまばらにそろろうひよるながひまわり
 木漏れ日に照らされいつも思ひだす友と過ごしたあの夏の日々
 泣きながらさようならと手を振ったまだ君思う夏の恋人
 田舎にて山々里を囲みしや見上げる空に雲せまく飛ぶ
 風は吹き木の葉をゆらし涼やかにセミたちの声かき消されてく
 沼田へと高速飛ばしふと気づく沼田の絶景河岸段丘
 年の差をうめんばかりのこの想い染まることないアナタの心
 帰り道ふと目を移せば田に蛍今日は気ままにより道して行く
 残像に歩みを邪魔され涙する時間が癒す私の五感
 真夏日にスイカ食べてすずんでは今日も家でゴロゴロすぞす

群馬県立利根実業高等学校 2年 横坂 萌
 群馬県立利根実業高等学校 2年 橋詰王子郎
 群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 青波
 群馬県立利根実業高等学校 2年 木樽 香奈
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 玲菜
 群馬県立利根実業高等学校 2年 中澤 堅
 群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 若菜
 群馬県立利根実業高等学校 2年 本田 結莉
 群馬県立利根実業高等学校 2年 佐々木きみえ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 佑月
 群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 涼大
 群馬県立利根実業高等学校 2年 上保 麻紘
 群馬県立利根実業高等学校 2年 船橋 菜由
 群馬県立利根実業高等学校 2年 大津 俊介
 群馬県立利根実業高等学校 2年 大津 俊介
 群馬県立利根実業高等学校 2年 川上 竜征
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小野日花里
 群馬県立利根実業高等学校 2年 佐藤 円香
 群馬県立利根実業高等学校 2年 金子 愛里
 群馬県立利根実業高等学校 2年 見城 実

白球や空と土とを駆けていく球児の汗と涙とともに	都会でてふるさとのこと思い出す温かいふるさと戻る夜の月	学生の長期休みがなつかしき今はもうないあの青春	我が故郷年々去つてく若者がいつか滅びる幻の村	山々を越えてたどった道のりは頂点からはどうみえるのか	夏休みバイトさんまい休めない冬休みこそ休めるように	アルバイトたばこの番号言ってくれ名前前で言ってもどれかわからん	夏休み遊びまくって楽しいな後で気づいた宿題やべえ	朝ごはん毎日食べれば健康体しつかり野菜も食べなきゃね	夏休みゲーム三昧バカのもと昼夜逆転不健康	雪とけて緑が茂る赤城山清水で潤う利根の川かな	火花散る夜空短く咲く大輪遅い音を聞き手に持つ花火	桜の木花びらで体を着飾って花が散る時大きな悲しみ	晴天下汗かきながら走りだす流れる風が心地よい	蝉の声緑の中に響き渡る甲子園での声援の様	いつか見た夢の風景思い出しなぜかくるしい電車の中で	いつもとは違う雰囲気ただよわせ背中で語る男野球部	この夏にわれらの思いみのるとき青春の花おうかし光る	かえる鳴く田畑の中をすずしげにすいすいおよぐおたまじゃくし	美しき桜が並ぶ通り道地に降りそそぐ花びらの舞い	
群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校	群馬県立利根実業高等学校
2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
倉澤 卓	倉澤 卓	星野 真緒	星野 真緒	板橋 怜司	板橋 怜司	新木 達也	新木 達也	毒島 翔	毒島 翔	尾身 朋紀	尾身 朋紀	本多 豪貴	本多 豪貴	高橋龍之介	高山 凌雅	高山 凌雅	高橋 青空	高橋 青空	小林 海里	小林 海里

晴天の青空広がる真夏の日日が照らし出す水の輝き	群馬県立利根実業高等学校	2年	小林	海里
今は無きあの日の景色なつかしいさびしさともに心に残る	群馬県立利根実業高等学校	2年	桑原	緋呂
永遠の時をあなたと刻みたいけれど君はもうこの世におらず	群馬県立利根実業高等学校	2年	桑原	緋呂
帰る時突然降りだす水滴がこの身を濡らし居なくなる	群馬県立利根実業高等学校	2年	横坂	竜樹
真夜中にポツポツ響く雨が降るそんな夜には人肌恋しい	群馬県立利根実業高等学校	2年	塩原	嶺
戌の刻バイト帰りに通る道月明かりさえ明るく感じる	群馬県立利根実業高等学校	2年	塩原	嶺
春香る桜の花びらひらひらと散ってなくなる桜の舞	群馬県立利根実業高等学校	2年	生方	翔夢
夏休み遊びすぎにはご注意ください最後に待つのは夏の天敵	群馬県立利根実業高等学校	2年	生方	翔夢
春の山山菜採りで熊出没木の陰隠れて息を殺す	群馬県立利根実業高等学校	2年	中村	勇斗
夏の雨気象の変化で運試し予想外れて親に連絡	群馬県立利根実業高等学校	2年	中村	勇斗
夏の夜むされるような風が吹きとまらずねぐるしいよる	群馬県立利根実業高等学校	2年	中村	勇斗
梅雨がきた晴れる日ねがう毎日に明日の天気は晴れるかな	群馬県立利根実業高等学校	2年	松本	爾海
梅雨の時期雨がしとしと降りつつも気温が上がり夏をむかえる	群馬県立利根実業高等学校	2年	松本	爾海
雨上がり水たまりを越えてゆくきつと明日は晴れるだろうな	群馬県立利根実業高等学校	2年	大島	響
山奥にポツポツ光るは金色の蛍は飛び交い暗闇照らす	群馬県立利根実業高等学校	2年	大島	響
虫かごさげむぎわら帽子とかけ回るカブトムシ探す夏のこの頃	群馬県立利根実業高等学校	2年	富澤	厳希
夜桜を上から眺める月と星淡い光が大地をつつむ	群馬県立利根実業高等学校	2年	富澤	厳希
この短歌どうしたものかと悩むけど考えるほどわからなくなる	群馬県立利根実業高等学校	2年	小川	葵
電線の子を負い渡る猿の親落ちないのかと心配になる	群馬県立利根実業高等学校	2年	奈良	愛梨
夏なのに曇ってばかりで晴れやせぬせつかくの夏が悲しきかな	群馬県立利根実業高等学校	2年	奈良	愛梨
	群馬県立利根実業高等学校	2年	永井	世保

去る君に伝えたいことがあったのに涙見せじと別れを告げる
 あくる日もまたあくる日も筆を持ち手紙を書けど君に送れず
 悩み事忘れるために一人旅夕陽の暮れる海を眺める
 無計画夏休みにはなにもないスイカを食ってボーッとしてる
 朝早く空暗く発つ旅に流れる時と思い出私の宝
 夏の空入道雲がもくもくと今日の夕方雨が降るかな
 夏休み海に行つてナンパして最後は家で海鮮丼
 恩返し緑に染まったスタンドへ一番長い夏の始まり
 りんご飴花が散る音染まる頬夏の終わりを噛みしむ火花
 夏休み外へ遊びに行くけれど涼しき場所を探し求める
 暑き日に多量の汗をかき濡れるそれも冷えれば涼しくもなる
 夏が来る風鈴の音鳴り響くみんな座つておいしい西瓜
 真夏日の太陽の下歩きゆく溶けゆくアイスにせかさながら
 満月に団子をつまみ重ね食う最後に残る十五夜の月
 雨上がりさし込む光と水たまりゆらゆられる小さな自分
 夕暮れに走る子供の小さな影幼き頃の姿重なる
 しとしとと降る雨粒や七月六日あの日の記憶思いだす
 夏祭り屋台があつて楽しいがためたお金全部なくなる
 山吹の花を見つめて懐かしむ遠くに越した親友を
 暑苦しい虚しく響く蝉の声変わらぬ日々と終わらない夏

群馬県立利根実業高等学校 2年 牛尾虎ノ介
 群馬県立利根実業高等学校 2年 牛尾虎ノ介
 群馬県立利根実業高等学校 2年 大河原優熙
 群馬県立利根実業高等学校 2年 加藤 春翔
 群馬県立利根実業高等学校 2年 金子 岳人
 群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 龍平
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田村 彪向
 群馬県立利根実業高等学校 2年 新木 奈都
 群馬県立利根実業高等学校 2年 本多 志帆
 群馬県立利根実業高等学校 2年 金子 秀真
 群馬県立利根実業高等学校 2年 金子 秀真
 群馬県立利根実業高等学校 2年 内田奈々美
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小倉 郁哉
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小倉 郁哉
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小川 葵
 群馬県立利根実業高等学校 2年 木村 海斗
 群馬県立利根実業高等学校 2年 木村 海斗
 群馬県立利根実業高等学校 2年 木村 海斗
 群馬県立利根実業高等学校 2年 木村 海斗
 群馬県立利根実業高等学校 2年 原澤 涼太
 群馬県立利根実業高等学校 2年 原澤 涼太
 群馬県立利根実業高等学校 2年 貝瀬 亮河
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 幸月
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 幸月
 群馬県立利根実業高等学校 3年 片桐 結友

ふと思う今まで何をしてきたか空を見上げて雲に問い質す
 初めての浴衣を着つけ夏祭り食べ物沢山食べたいな
 天に舞う君の心と思いは悲しからずや今日も旅行く
 舞降りる君への思い染まりゆく遙かかなたへ愛しき人よ
 空飛ぶ善ぜんの白鳥と相入る悪の黒鳥の間で揺れる私の心
 永遠えいえんの恋心こそ永遠とわに存在あり離れることなき赤い糸
 故郷ふるさとの景色を見て思い出す幼き頃の貴重な思い出
 川上の清き流川照る夏や人が集いし諏訪橋大橋
 グラウンド汗が滴る五回裏攻守交わる一瞬の夏
 手を繋ぎ二人で歩いた夏祭り別れを惜しがり影が重なる
 常夏の思い出浮かぶあのおい遠く空に想いを馳せて
 ホーム内行きかう人は同じ顔最後の登校寂しく思う
 夏の空今夜も響く涼む音風鈴や滝虫の鳴き声
 蟬の声うるさく響く町の中水に飛びこみ耳ふさぐ
 叫び声届かぬものと知りながらかすかな希望信じて叫ぶ
 夏祭り神が舞い降りみな踊るみなが笑えば神もにこやか
 涼しげな川辺の森で一休み爽やかになる私の心
 旅のあと疲れをいやす温泉と静かな夜にふるさと想う
 夏が来て若葉なる頃川辺には蛍飛び交う夢のような地
 何回も好きと言っては振られてく次は言いたい付き合いたいと

群馬県立利根実業高等学校 3年 片桐 結友
 群馬県立利根実業高等学校 3年 稲垣ちひろ
 群馬県立利根実業高等学校 3年 諸田 ゆず
 群馬県立利根実業高等学校 3年 諸田 ゆず
 群馬県立利根実業高等学校 3年 榎山 衣舞
 群馬県立利根実業高等学校 3年 榎山 衣舞
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 美登
 群馬県立利根実業高等学校 3年 中村 天音
 群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 茉莉
 群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 茉莉
 群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 茉莉
 群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 彩加
 群馬県立利根実業高等学校 3年 永井 里奈
 群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 史帆
 群馬県立利根実業高等学校 3年 嘉山 桃香
 群馬県立利根実業高等学校 3年 嘉山 桃香
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小野 麗奈
 群馬県立利根実業高等学校 3年 渡邊 湧宇
 群馬県立利根実業高等学校 3年 富田 小晴
 群馬県立利根実業高等学校 3年 渡部 亜美
 群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 舞斗

電話ごし泣きながら聞く君の声今日も一緒に帰りたかった	群馬県立利根実業高等学校	3年	阿部 舞斗
時は過ぎ気持ちも冷め忘れた頃突然の出会いにまた頬を赤める	群馬県立利根実業高等学校	3年	田村 美桃
夏の夜の祭りの音が風にのり私の家へと聞こえてくるよ	群馬県立利根実業高等学校	3年	武井 夢瑠
夏祭り浴衣姿の君といる結び上げた髪と足元の下駄	群馬県立利根実業高等学校	3年	伊藤 乃瑠
打上げ花火心臓にくるあの音は少し苦しく痛いけど夏の音だと実感する	群馬県立利根実業高等学校	3年	吉原 弥世
夏休み花火大会夏祭りいつもの友と恒例行事今年こそ海行つてみたいな	群馬県立利根実業高等学校	3年	吉原 弥世
あの人の頬にしたたる勇美な汗となりでいつもぬぐいたい	群馬県立利根実業高等学校	3年	荒井菜月光
緑に染まる故郷の地老年輝く田んぼの色たくみの技に感激す	群馬県立利根実業高等学校	3年	荒井菜月光
夏の空太陽照らす水面は遊びをそそる海の季節	群馬県立利根実業高等学校	3年	宇津野希泉
時が過ぎ紅葉 ^{もみじ} 散っては君思ふ儚く散ったあの恋を	群馬県立利根実業高等学校	3年	小林 幸月
川中の水に足入れひんやりと夏の暑さも少し涼しむ	群馬県立利根実業高等学校	3年	田村 優路
夏祭り友と最後の夏祭り思いを胸に今日も行く	群馬県立利根実業高等学校	3年	宮田 将樹
みなかみは緑が多く良い町だ自然豊かで暮らしやすい	群馬県立利根実業高等学校	3年	阿部 梨乃
美しい緑に囲まれ来たる夏君と行きたいみなかみの町	群馬県立利根実業高等学校	3年	林 美砂希
日の光あびてまぶしい白い雲わが行く道を照らすかのよう	群馬県立利根実業高等学校	3年	林 美砂希
群馬県山に囲まれ大自然都会にはないおいしい空気	群馬県立利根実業高等学校	3年	松井 圭吾
ポイトレをすればするほど落ちてゆくこれも天命挫折しそうだ	群馬県立利根実業高等学校	3年	栞原 裕太
春分の暁染まるカモメたち海辺を別かれいつこへ行く	群馬県立利根実業高等学校	3年	栞原 裕太
ポイ捨てて山が悲鳴を上げているどうか気付いて故郷 ^{ふるさと} の声	群馬県立利根実業高等学校	3年	栞原 達也
群馬県山が囲んだ大魔境入りし者は二度と出て来ぬ	群馬県立利根実業高等学校	3年	栞原 達也

天翔けるおさえられないこの気持ち今日も今日とてあぁなぐらいたい	群馬県立利根実業高等学校	3年	長岡 雄基
今も変わらぬこの気持ちいつもとなりにいる彼と変わりたい	群馬県立利根実業高等学校	3年	長岡 雄基
時流れ平成終わり令和となる言われるだろな昔の人と	群馬県立利根実業高等学校	3年	狩野 志帆
みなかみの三大スポーツこれで決まり飛んで流れてまた跳んで	群馬県立利根実業高等学校	3年	山之内鮎美
時越えて変わらぬものは山ばかり名残り惜しくも時流れゆく	群馬県立利根実業高等学校	3年	丸山 二葉
友達と楽しく話す教室もあともう少し楽しい日々は	群馬県立利根実業高等学校	3年	原 若菜
授業中ふと思いつく君の笑み今日も明日も恋におちてく	群馬県立利根実業高等学校	3年	武井 萌恵
どこ行こう楽しい夏も今年まで華のJK思い出作り	群馬県立利根実業高等学校	3年	井上 志帆
雪溶けの清水流れる稲荷滝上がるしぶきは九尾 <small>きゅうび</small> のしつぽ	群馬県立利根実業高等学校	3年	齋藤 雄太
風薫る初夏のある日に君想う浮かべた君はとても綺麗で	群馬県立利根実業高等学校	3年	林 花永
葉がしげり風の中にも心ありなごむ優しさこれぞふるさと	群馬県立利根実業高等学校	3年	小林 美槻
夏休み花火や祭夜にぎわう昼は子供の楽しげな声	群馬県立利根実業高等学校	3年	野村 泉
朝起きて嫌々通う高校へこんな気持ちも懐かしい	群馬県立利根実業高等学校	3年	本多 里美
夏休み君を呼び出す10時前既読とともに気持ち伝える	群馬県立利根実業高等学校	3年	飯村 剛士
高三で進路の道は別たれた友とは違う人生の道	群馬県立利根実業高等学校	3年	横坂 達也
漠然と考えていたあの日から時過ぎ今は進路の時期に	群馬県立利根実業高等学校	3年	横坂 達也
会いたくてゆっくり歩く帰り道気づいてほしい私の気持ち	群馬県立利根実業高等学校	3年	大塚明日香
放課後のグラウンドにいる君探し口から漏れた君への想い	群馬県立利根実業高等学校	3年	大塚明日香
好きと言う2文字 <small>ふた</small> さえも言えなくてふと見た君の視線はあの子	群馬県立利根実業高等学校	3年	鈴木 仁美
ゆかた着る君を思つて夏祭りキツネのお面照れ顔隠くす	群馬県立利根実業高等学校	3年	鈴木 仁美

奥利根の三湖さんこに集う清水きよみずは上から下の街を支える
 早朝に部屋にさしこむ光のすじ重い目蓋をふさぐ掌
 雨が降り外にはでれず暇潰し猫と戯れ時過ぎてゆく
 夜の道イヤホン耳に音楽をP.V風になりきってみる
 君見つけ遠くで見てるその姿頑張る姿勇気をもろう
 雨上がり葉からこぼれる水滴にこれから夏がやってくる
 雪積もる一緒に帰る帰り道赤らむ頬は寒さかな
 外を見て夜空に光る星空に私の願い届きますように
 友だちと思いい出たくさん夏休み高校最後の青春を
 だんだんと涼しさ去って暑くなりしかし天気は晴れずに雨だ
 夏祭り隣を歩く君見たら帰りたくない心が叫ぶ
 夏休み友達と行く川遊び魚も釣って自然に触れる
 夏祭り響きわたるはまんの音ね夜にもなればさらに賑やか
 雨の中傘もささずに濡れていて自分の涙も一緒に流す
 灰色の空を眺めて気持ち知る濁った空は私に似ている
 通学路歩いていくと全身に日光浴びて健康肌に
 夕暮れ時赤反射する海の色頬の染まりの言い訳にして
 夜空にはダイヤのようなきらめきが輝きながら散らばっている
 夏になり夜の空にはうかびだす光きらめく華やかな花
 授業中利根実の勝ち期待する白球追いかけて全力プレー

群馬県立利根実業高等学校 3年 齋藤 雄太
 群馬県立利根実業高等学校 3年 中島 百絵
 群馬県立利根実業高等学校 3年 中島 百絵
 群馬県立利根実業高等学校 3年 坂内 千晴
 群馬県立利根実業高等学校 3年 坂内 千晴
 群馬県立利根実業高等学校 3年 武井 風香
 群馬県立利根実業高等学校 3年 武井 風香
 群馬県立利根実業高等学校 3年 樋口 梨花
 群馬県立利根実業高等学校 3年 樋口 梨花
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宮澤 利奈
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宮澤 利奈
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宇田川 綾
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宇田川 綾
 群馬県立利根実業高等学校 3年 石井 裕菜
 群馬県立利根実業高等学校 3年 石井 裕菜
 群馬県立利根実業高等学校 3年 倉田 葵奈
 群馬県立利根実業高等学校 3年 倉田 葵奈
 群馬県立利根実業高等学校 3年 倉田 葵奈
 群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 梨乃
 群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 梨乃
 群馬県立利根実業高等学校 3年 富永 蓮

セミの声夏のおとずれ感じけり短し命刹那なり
 夏休みプールに祭り盆踊り宿題もせず遊んでばかり
 夏休みセミの鳴き声響いても七日も経てば静まりかえる
 夏祭り大輪の花咲く時は皆空見上げ花に見とれる
 空見上げ咲きほこる花美しくひまわりの色映える青空
 夏空に流星みつけ目を閉じる私の願叶うといいな
 空見上げ星をなぞれば君思う私の思い夜空に届け
 夏が来て冬の寒さが恋しくて外をながめるあの日を思う
 青い空友と遊んだあの春にたくさん思い出これぞ青春
 窓の外雨降る空を見上げては明日の天気は晴れを願って
 夏来ると太陽ジリジリ照らして涼しい部屋にずっといたいな
 冬なるといちごが実るたくさんみんな食べてみんな幸せ
 夏祭り今年の夏は参加する今年の夏は楽しく過ごす
 夏の海夜はキラキラ光ってる夜空と一緒にキレイな海だ
 夏の星願いをこめて見上げると遠きかなたへ想いをのせて
 七夕の夜空に浮かぶ川の橋二人が出会える最初で最後
 みなかみは利根の源流水きれいイワナもヤマメも仲々生きる
 僕の村世界に誇れる尾瀬がある春夏秋冬表情ちがう
 夕やけのオレンジ色の空の下横を見ると染まる両頬
 汗たらし熱気であふれる体育館ボールを追った少し長い夏

群馬県立利根実業高等学校	3年	富永	蓮
群馬県立利根実業高等学校	3年	新井	陽佳
群馬県立利根実業高等学校	3年	新井	陽佳
群馬県立利根実業高等学校	3年	角田	梨緒
群馬県立利根実業高等学校	3年	角田	梨緒
群馬県立利根実業高等学校	3年	高橋	咲笑
群馬県立利根実業高等学校	3年	高橋	咲笑
群馬県立利根実業高等学校	3年	星野	朱音
群馬県立利根実業高等学校	3年	星野	朱音
群馬県立利根実業高等学校	3年	近野	美咲
群馬県立利根実業高等学校	3年	櫛渕	理香
群馬県立利根実業高等学校	3年	櫛渕	理香
群馬県立利根実業高等学校	3年	田邊	茉由
群馬県立利根実業高等学校	3年	田邊	茉由
群馬県立利根実業高等学校	3年	田邊	茉由
群馬県立利根実業高等学校	3年	木村	真奈
群馬県立利根実業高等学校	3年	木村	真奈
群馬県立利根実業高等学校	3年	萩原	悠己
群馬県立利根実業高等学校	3年	萩原	悠己
群馬県立利根実業高等学校	3年	金子	流理
群馬県立利根実業高等学校	3年	金子	流理

足跡を寒空の下残しゆく青い君待つ家族の元へ
 白うさぎ幼き子どもにほほえむと涙をながし春を迎える
 会いたいといくら思えど会えなくて苦しい日々とすんだ青空
 七夕に願いを込めて思えども私の願いはかなしく消えた
 去年とは比べもられぬ長い梅雨この調子では外にも出れぬ
 夏休み宿題ないと思ったら突然でてきて地味に悲しい
 毎日の学校終わり休日はどちらも楽しみゲームの時間
 みなかみのお米とお水のおいしさはどこよりうまい日本一
 白球を追いかけて走る球児たち光り輝くグラウンドの土
 一日の終わりになめる一粒のきやらめる僕の小さな幸せ
 梅雨の日の空に広がる灰色は鏡に映る私の気持ち
 手に汗を握りしめ問う青空に勝利の女神は微笑むかと
 夏祭り並ぶ屋台おみこしやはしゃぐ子供にやさしいまなざし
 夏の夜に虫の音響く静けさと空に瞬く満天の星
 手を引かれ終電まで走り出す汗ばむ君と時間よ止まれ
 休日に一人で散歩山の中きれいな空気多くの生き物
 夏の空大きなお花さいてきた心にひびく夏の音色
 担架に揺られてカタンカタン少し待たんかゆつくり動け
 私を好きになってくれた人は私が嫌いになった人
 サイフからどンドン消える俺の金いつから金に羽が生えたの

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 茜
 群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 茜
 群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴巻奈々花
 群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴巻奈々花
 群馬県立利根実業高等学校 3年 三浦 真汰
 群馬県立利根実業高等学校 3年 三浦 真汰
 群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 愛美
 群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 愛美
 群馬県立利根実業高等学校 3年 荒井 拓和
 群馬県立利根実業高等学校 3年 荒井 拓和
 群馬県立利根実業高等学校 3年 井上 智春
 群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 めい
 群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 めい
 群馬県立利根実業高等学校 3年 外山 美桜
 群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 美羽
 群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 美羽
 群馬県立利根実業高等学校 3年 安立ひより
 群馬県立利根実業高等学校 3年 安立ひより
 群馬県立利根実業高等学校 3年 金井 祐理
 群馬県立利根実業高等学校 3年 金井 祐理
 群馬県立利根実業高等学校 3年 荒川慎之助
 群馬県立利根実業高等学校 3年 荒川慎之助
 群馬県立利根実業高等学校 3年 工藤 伯
 群馬県立利根実業高等学校 3年 工藤 伯
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 俊太
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 俊太
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 俊太
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 俊太
 群馬県立利根実業高等学校 3年 田浦 裕也
 群馬県立利根実業高等学校 3年 田浦 裕也

三年生一度で決まる我が人生始まりとともに全てが終わった
 青春に気づいた時には後わずか後悔するより楽しめ青春
 夜の空一匹二匹と増えてゆく今年もほたるの季節がくる
 こんにちはよく間違えるその言葉今の時刻は午後六時です
 「ごめんさい」胸突きささるその言葉今は列車にゆれてる私
 高嶺の花二十になり歳とる頃には隣の花
 失敗した次に生かせは成功だいつでもできる後出しジャンケン
 進学の難易度高き専門校ワンチャンかけて入試にいどむ
 君と僕二人の時間は失うけれどその幸せは変らぬ運命さだめ
 暑い体育館僕のサーブはネットへかかり悔しき最後のインターハイ
 恋の花打ち上げられてはすぐ消えるけれど私は君から消えぬ
 ありがとう背中を押してくれた君いつか言いたいお礼の言葉
 夏の日に心に響く鳴き声がひぐらしの鳴く夕方の時
 雨の中かさもささずに立つ君はなみださえもわからない
 秒針速く動けと願いつける退屈極まる授業のとき
 引退をしたいと泣いた毎日も終わって泣いたしたくないよと
 屁をこいた大きな音で今こいたにおいは音に反比例かな
 一球で結果は変わる高々と舞い上がった白球は外野をも越えていった
 天照らす月と太陽君の笑顔まるで君は星のようだね
 白球を追う十年の終わる時に静かなサイレンが鳴り

群馬県立利根実業高等学校 3年 竹内 大也
 群馬県立利根実業高等学校 3年 竹内 大和
 群馬県立利根実業高等学校 3年 角田奈菜子
 群馬県立利根実業高等学校 3年 平井 蓮
 群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 学翔
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 大成
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 大成
 群馬県立利根実業高等学校 3年 新井鷹之介
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宇敷 優奈
 群馬県立利根実業高等学校 3年 大高 壮真
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 千智
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 千智
 群馬県立利根実業高等学校 3年 菅沼 迅起
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小野友貴久
 群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴淵 悠斗
 群馬県立利根実業高等学校 3年 永井 唯人
 群馬県立利根実業高等学校 3年 中村 愛心
 群馬県立利根実業高等学校 3年 原澤 慧
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 魁里
 群馬県立利根実業高等学校 3年 高山 将成

十八歳楽しみたいたいけど進路決め不安な気持ちで頭がいつぱい
 こんなにも人が多いのいつぶりだ皆もここを旅立つのかな
 俺だけじゃなくて周りもふざけてるのになんでいつも俺だけなん？
 手を振られ校舎の窓から返す僕視線の先に二階の男
 あれもだめこれもだめで全部だめ君は何なら続けられる
 けがは無い一度の失敗命取り日本で一番黒部ダム
 対戦し試合が終われば認め合うそして深まる友情が
 街灯にたかる虫にしか分からない大きな世界の小さな体
 コンビニアイス食べながら炎天下のもと帰路につく
 楽しい日残るメモリー深くありディスクのようにすぐには消えぬ
 試験の日勉強せずに寝た夜を頭は白く空は青けり
 藤原郷霊が夜々泣きわめく夜の心スポ危険ありけり
 竹林響き渡るホーホーホその正体はハトでした
 夏の空透き通る青空に巨大雲あの感じ結構好きだな
 気がつけば平成終わって新元号令和元年楽しく過ごそう
 グラウンドに鳴り響くホイッスル空を見上げてガッツポーズ
 僕の夏何もせず終ったあの日の事悔しいかぎり
 旅行前ハリキリすぎて熱が出るみんなは今頃飛行機かな
 夏晴れ日空から落ちる雨粒が太陽に照らされきれいに光る
 学校の教室から見る校庭は大雨降って大河になった

群馬県立利根実業高等学校	3年	田村光四郎
群馬県立利根実業高等学校	3年	中島綾成
群馬県立利根実業高等学校	3年	林亮汰
群馬県立利根実業高等学校	3年	林亮汰
群馬県立利根実業高等学校	3年	原澤怜児
群馬県立利根実業高等学校	3年	湯原巧
群馬県立利根実業高等学校	3年	湯原巧
群馬県立利根実業高等学校	3年	渡部希未
群馬県立利根実業高等学校	3年	安達彩花
群馬県立利根実業高等学校	3年	木村翔
群馬県立利根実業高等学校	3年	木村翔
群馬県立利根実業高等学校	3年	桑原海斗
群馬県立利根実業高等学校	3年	清水瑠雅
群馬県立利根実業高等学校	3年	清水瑠雅
群馬県立利根実業高等学校	3年	鈴木歩
群馬県立利根実業高等学校	3年	津久井啓斗
群馬県立利根実業高等学校	3年	堤昭瑛
群馬県立利根実業高等学校	3年	藤本唯斗
群馬県立利根実業高等学校	3年	増田涼
群馬県立利根実業高等学校	3年	星野健心

バスの外流れる景色彩やかに大きな雲に夏を感じて
 夏の雨心も晴れず空見つめ楽しき日々をただ思い出す
 谷川の景色見わたすロープウェイ祖父母の思い出出合いの場
 別れぎわ車道はさんで見つめあう二人の視線はいとかなし
 光る雲形をとわず青空をめぐる姿にあこがれて
 里帰り夜の川辺で見るホタルホタルを見ずにあなたをみつめ
 スイカ割り夏の始まり訪れるスイカが写す僕らの絆
 行けるだけたまたまらず友は矢も盾も罹災のふるさと行くと旅立つ
 見上げれば空一杯に花火咲く浴衣着ているあの子と共に
 足進め横見渡せば目に入る流れる声とあの日の希望
 竹林をはずんで歩く僕の手をひっぱり先を導く友よ
 水上の情景臨むその光彩草木かき分け地に落ちるなり
 水源の流るる利根川行く先は利根の名ぞ知ぬ道を行くかな
 行く先の不安を抱え歩きつつ寂しさ隠せず旅立つふるさと
 上州と越後を結ぶ古道は上越軌道の足を踏みつつ
 雪解けや山々の緑明らかになりゆく谷川の雪
 暑き夏谷川の嶺未だ白く清き流るる利根の水郷
 谷川の大自然を肌で感じるすばらしさやありがたみ
 さよならと告げ去る君の背中追い遮るように遮断機揺れる
 君出会い恋に恋して告白し別れをつげる夢の中

群馬県立利根実業高等学校	3年	阿部響太郎
群馬県立利根実業高等学校	3年	井熊 夢翔
群馬県立利根実業高等学校	3年	唐澤 優輝
群馬県立利根実業高等学校	3年	川田 至臣
群馬県立利根実業高等学校	3年	小沼 芙実
群馬県立利根実業高等学校	3年	白井 尚吾
群馬県立利根実業高等学校	3年	茂木 登夢
群馬県立利根実業高等学校	3年	安沢 鳳斗
群馬県立利根実業高等学校	3年	石坂虎汰朗
群馬県立利根実業高等学校	3年	大谷 智也
群馬県立利根実業高等学校	3年	大谷 智也
群馬県立利根実業高等学校	3年	小坂橋 勇人
群馬県立利根実業高等学校	3年	小坂橋 勇人
群馬県立利根実業高等学校	3年	小林 繁宗
群馬県立利根実業高等学校	3年	小林 繁宗
群馬県立利根実業高等学校	3年	小林 繁宗
群馬県立利根実業高等学校	3年	佐藤 大祐
群馬県立利根実業高等学校	3年	阿部 柁
群馬県立利根実業高等学校	3年	栗原 唯人
群馬県立利根実業高等学校	3年	小池 楓花
群馬県立利根実業高等学校	3年	佐藤 裕太

第三回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集 中学生・高校生の部

令和元年十一月十七日発行

編集／発行 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379-1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321-1

みなかみ町教育委員会内

電話 0278(25)5025



第3回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集 中学生・高校生の部

開催日 令和元年（2019）11月17日（日） 午後1時開会
会場 みなかみ町カルチャーセンター 群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735
主催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会
共催 みなかみ町牧水会
後援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・群馬県・上毛新聞社・三成社株式会社
おちあいしんぶんマイタウンたにがわ・沼田エフエム放送株式会社
(一財) 三国路与謝野晶子紀行文学館